

1. 管理栄養士・栄養士の教育カリキュラム現状分析ワーキンググループ

管理栄養士・栄養士のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラム検討の基礎資料とするために、管理栄養士・栄養士養成施設と栄養関連大学院の教育内容の現状を質問紙調査、ウェブ調査、事例調査により行った。

質問紙調査は2017年8月1日に、管理栄養士養成施設144施設(4年制大学137, 専門学校7), 栄養士養成施設123施設(2年制短期大学98, 3年制専攻科8, 4年制大学16, 専門学校1), 栄養関連大学院83校に教育カリキュラムに関する質問票を郵送し、学科長または専攻長相当職へ記入を依頼した。ウェブ調査は、ディプロマ・ポリシー(DP)をホームページ上で確認できた、管理栄養士養成施設137施設、栄養士養成施設114施設、栄養関連大学院83校を対象に、学部・学科名、育成する人材像、DP等を基に記述的な集計を行った。両調査後に、特徴的な栄養学教育を実施していた栄養関連大学院を有する5大学へ、面談もしくは電話による、事例(インタビュー)調査を実施した。

質問紙調査の有効回答数および回答率は、管理栄養士養成施設125施設(86.8%), 栄養士養成施設100施設(81.3%), 栄養関連大学院65校(78.3%)であった。主要な結果は以下1～6のとおりである。

1. 入学から卒業まで: 入学定員の中央値は、管理栄養士養成施設80名、栄養士養成施設60名であった。管理栄養士養成施設の100%が養成する人材像に職業人養成を挙げていたが、「専門性を活かした就職」は卒業生の約8割(栄養士養成施設は約6割)であり、養成する人材像(臨床栄養、公衆栄養等)と実際の就職先に乖離が認められた。栄養士養成施設から管理栄養士養成施設への編入学者の中央値は卒業生の1.0%, 管理栄養士養成施設から栄養関連大学院への進学者の中央値は、1.1%(その他の大学院は0.6%)で、大半が卒業後に就職していた。
2. 教育カリキュラム: 導入教育は、管理栄養士・栄養士養成施設とも約9割で行われていた。管理栄養士養成施設では、「専門意識の醸成」、「職業倫理教育」は7～8割、「情報のエビデンス判断」が6割弱の施設で行われていたが、「他職種連携」は約4割であった。また、「資質・能力を高める教育」では、「使命感・役割」、「協調性」、「論理的思考力」、「課題解決に向けた行動力」、「文献検索力・読解力」が約9割の施設で行われていた一方で「アドボカシー」は約2.5割に留まった。卒業研究(必修)は67施設(53.6%)で、その半数が4単位履修であった。
3. 臨地実習(管理栄養士養成施設): 4単位での実習が64.8%と最も多かった。給食経営管理論・給食の運営臨地実習は、1単位(88.3%)で3年生(74.7%)での履修が多く、約半数の施設が介護老人福祉施設と事業所を実習先としていた。臨床栄養臨地実習は、1または2単位で(各43.4%), 3年生(51.0%)または4年生(36.4%)での履修が多く、100%の施設が医療施設を実習先としていた。公衆栄養学臨地実習は、1単位(94.2%)で3年生(40.4%)または4年生(53.8%)での履修が多く、99%の施設が保健所・保健センターを実習先としていた。
4. 教員が行う現場と連携した教育の件数は、管理栄養士・栄養士養成施設ともに、栄養教育論(栄養指導)、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理論担当教員による実施が多く、応用栄養学が続いた。
5. 栄養関連大学院の養成する人材像は、職業人養成(95%), 研究者養成(88%)であり、35%の大学院が、今後高度職業専門人養成を強化すると回答した。進路では、企業との回答が36校(1～14人の範囲)で最も多く、次いで教育機関28校(1～2人の範囲)であった。博士後期課程へ進学との回答は19校(1～7人の範囲)からあった。
6. 管理栄養士養成施設学生と栄養関連大学院生のコンピテンシー比較から、①論理的思考力、②資料・文献検索力と読解力、③課題解決に向けた行動力、④リーダーシップ、⑤マネジメント能力が院生で有意に高かった。

ウェブ調査から、大学名・学部名・学科名のいずれにも「栄養」を含まないところは、栄養士養成施設(短大・4年制大学)の約半数、管理栄養士養成施設の約1割、栄養関連大学院の約4割にみられることなどが明らかとなった。

事例調査では、栄養学を基礎とするプロフェッショナルを育てる、学部教育から大学院教育に繋ぐ、等の視点から、様々な工夫された取組みの事例を収集できた。

付録 1 調査 1 質問紙調査結果（全体）

管理栄養士養成施設結果（有効回答：125 施設）

1. 管理栄養士養成課程の学生数 単位：人

	回答数		平均値	標準偏差	中央値	最小値－最大値
管理栄養士養成施設 (4 年制大学)	116	入学定員	76.3	33.2	80.0	25-200
		編入学定員	2.2	4.3	0.0	0-20
		合計	78.6	34.5	80.0	25-220
管理栄養士養成施設 (専門学校)	5	入学定員	48.0	17.9	40.0	40-80
		編入学定員	4.0	8.9	0.0	0-20
		合計	52.0	17.9	40.0	40-80
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	3	入学定員	73.3	30.6	80.0	40-100
		編入学定員	0.0	0.0	0.0	0-0
		合計	73.3	30.6	80.0	40-100
管理栄養士養成施設 全体	124	入学定員	75.1	33.0	80.0	25-200
		編入学定員	2.2	4.5	0.0	0-20
		合計	77.4	34.2	80.0	25-220

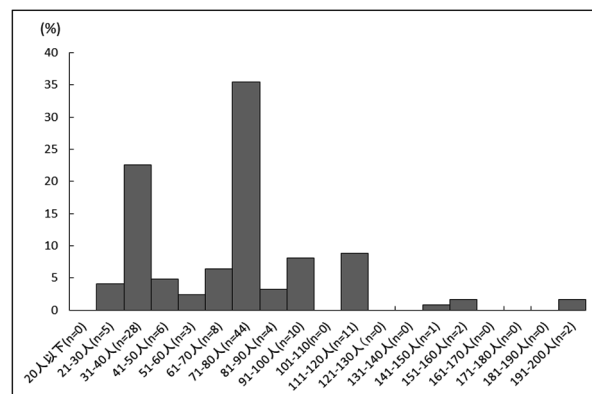


図 1 管理栄養士養成施設全体（124 校）の入学定員（編入学定員を含まない）の分布

学校種別不明の 1 施設を除く 124 施設が回答した。入学定員は 25～200 人の範囲にあり，中央値 80.0 人，平均 75.1 (s.d. 33.0) 人であった。31～40 人と 71～80 人の 2 か所にピークを有する二峰性の分布を示した。

II. 管理栄養士養成課程の教育方針について

1. 養成する人材像と強化している具体的分野（複数回答） 単位：施設数 (%)

	養成する人材像		具体的分野	
管理栄養士養成施設 (4 年制大学) n=116	職業人養成	116 (100.0)	①臨床栄養	103 (88.8)
			②公衆栄養	77 (66.4)
			③給食経営管理	79 (68.1)
			④学校栄養	81 (69.8)
			⑤健康・スポーツ栄養	52 (44.8)
			⑥福祉栄養	58 (50.0)
			⑦食品開発	48 (41.4)
			⑧国際栄養	11 (9.5)
			⑨その他*2	6 (5.2)
	研究者養成	41 (35.3)	①基礎研究	34 (29.3)
管理栄養士養成施設 (専門学校) n=5			②応用研究	32 (27.6)
			③その他	0 (0.0)
	その他*1	3 (2.4)		
	職業人養成	5 (100.0)	①臨床栄養	5 (100.0)
			②公衆栄養	2 (40.0)
			③給食経営管理	5 (100.0)
			④学校栄養	2 (40.0)
			⑤健康・スポーツ栄養	4 (80.0)
			⑥福祉栄養	1 (20.0)
			⑦食品開発	1 (20.0)
			⑧国際栄養	0 (0.0)
			⑨その他	0 (0.0)
	研究者養成	0 (0.0)	①基礎研究	0 (0.0)
			②応用研究	0 (0.0)
			③その他	0 (0.0)
	その他	0 (0.0)		

管理栄養士養成施設 全体 n=125*3	職業人養成	125 (100.0)	①臨床栄養	112 (89.6)
			②公衆栄養	82 (65.6)
			③給食経営管理	87 (69.6)
			④学校栄養	84 (67.2)
			⑤健康・スポーツ栄養	54 (43.2)
			⑥福祉栄養	62 (49.6)
			⑦食品開発	50 (40.0)
			⑧国際栄養	12 (9.6)
			⑨その他	6 (4.8)
	研究者養成	42 (33.6)	①基礎研究	34 (27.2)
			②応用研究	32 (25.6)
			③その他	1 (0.8)
	その他	3 (2.4)		

*1 養成する人材像：その他の記載内容

実学（学外実践）（1），プロジェクト活動（1），地域貢献活動（1）

*2 職業人養成 具体的分野：その他の記載内容

調理（1），食事計画実習・コミュニケーション演習（1），食育（1），食品衛生（1），
臨床心理学（1），特に強化しているものはなし（1）

*3 学校種別不明の4校の詳細は未掲載であるが，管理栄養士養成施設全体へは含む。

125 施設全てが回答し，全ての施設で養成する人材像として職業人養成を目指していた。その中で強化している具体的分野は，臨床栄養が約 9 割と最も多く，次いで給食経営管理，学校栄養，公衆栄養が約 7 割であった。研究者養成は約 3 割であった。

2. 管理栄養士として求められる資質・能力を高める教育

2-1 資質・能力を高める教育の実施

単位：施設数（％）

		現在 行っている	現在行っ ていない	今後取り 組む予定	欠損
管理栄養士 養成施設 (4 年制大学) n=116	1) 管理栄養士の使命感と役割	108 (93.1)	1 (0.9)	6 (5.2)	1 (0.9)
	2) 論理的な思考力	108 (93.1)	1 (0.9)	6 (5.2)	1 (0.9)
	3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	88 (75.9)	18 (15.5)	10 (8.6)	0 (0.0)
	4) 資料や文献の検索力と読解力	104 (89.7)	5 (4.3)	7 (6.0)	0 (0.0)
	5) 課題解決に向けた行動力	106 (91.4)	5 (4.3)	4 (3.4)	1 (0.9)
	6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	82 (70.0)	22 (19.0)	12 (10.3)	0 (0.0)
	7) リーダーシップ	90 (77.6)	17 (14.7)	8 (6.9)	1 (0.9)
	8) マネジメント能力	99 (85.3)	12 (10.3)	5 (4.3)	0 (0.0)
	9) 社会や組織を変えようとする力(アドボカシー)	30 (25.9)	58 (50.0)	26 (22.4)	2 (1.7)
	10) 協調性	108 (93.1)	5 (4.3)	3 (2.6)	0 (0.0)
	11) その他*1	4 (3.4)	0 (0.0)	0 (0.0)	112(96.6)
管理栄養士 養成施設 (専門学校) n=5	1) 管理栄養士の使命感と役割	4 (80.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	2) 論理的な思考力	4 (80.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	4) 資料や文献の検索力と読解力	5 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	5) 課題解決に向けた行動力	3 (60.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	2 (40.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	7) リーダーシップ	3 (60.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	8) マネジメント能力	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	9) 社会や組織を変えようとする力(アドボカシー)	1 (20.0)	3 (60.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	10) 協調性	5 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	11) その他*1	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4 (80.0)

管理栄養士 養成施設 全体 n=125*2	1) 管理栄養士の使命感と役割	124 (99.2)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)
	2) 論理的な思考力	116 (92.8)	1 (0.8)	7 (5.6)	1 (0.8)
	3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	96 (76.8)	19 (15.2)	10 (8.0)	0 (0.0)
	4) 資料や文献の検索力と読解力	112 (89.6)	5 (4.0)	8 (6.4)	0 (0.0)
	5) 課題解決に向けた行動力	113 (90.4)	6 (4.8)	5 (4.0)	1 (0.8)
	6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	87 (69.6)	25 (20.0)	13 (10.4)	0 (0.0)
	7) リーダーシップ	96 (76.8)	19 (15.3)	9 (7.2)	1 (0.8)
	8) マネジメント能力	106 (84.8)	14 (11.2)	5 (4.0)	0 (0.0)
	9) 社会や組織を変えようとする力(アドボカシー)	33 (26.4)	62 (49.6)	28 (22.4)	2 (1.6)
	10) 協調性	117 (93.6)	5 (4.0)	3 (2.4)	0 (0.0)
	11) その他	6 (4.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	119 (95.2)

*1 その他の記載内容：育人・育心（1），ボランティア精神（1），校訓・真実心（思いやりの心）の醸成（1），社会人基礎力（1），地域連携活動（1）

*2 学校種別不明の4校の詳細は未掲載であるが，管理栄養士養成施設全体へは含む。

125 施設全てが回答し，「管理栄養士の使命感と役割」は1施設を除く124施設（99.2%）で教育を行っていた。「論理的な思考力」，「課題解決に向けた行動力」，「協調性」も9割以上の施設で教育を行っていた。一方，「社会や組織を変えようとする力（アドボカシー）」は33施設（26.4%）のみ教育を行っていた

2-2 資質・能力を高める教育の卒業時における学生の修得割合

単位：施設数（%）

		ほぼ全員	7～8割	約半数	2～3割	0～1割	わからない	欠損
管理栄養士 養成施設 (4年制大学) n=116	1) 管理栄養士の使命感と役割	35 (30.2)	56 (48.3)	14 (12.1)	1 (0.9)	0 (0.0)	3 (2.6)	7 (6.1)
	2) 論理的な思考力	16 (13.8)	38 (32.8)	37 (31.9)	12 (10.3)	0 (0.0)	7 (6.0)	6 (5.2)
	3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	15 (12.9)	46 (39.7)	17 (14.7)	5 (4.3)	2 (1.7)	20 (17.2)	11 (9.5)
	4) 資料や文献の検索力と読解力	16 (13.8)	39 (33.6)	27 (23.3)	15 (12.9)	4 (3.4)	8 (6.9)	7 (6.1)
	5) 課題解決に向けた行動力	9 (7.8)	55 (47.4)	22 (19.0)	14 (12.1)	0 (0.0)	10 (8.6)	6 (5.2)
	6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	11 (9.5)	43 (37.1)	19 (16.4)	4 (3.4)	3 (2.6)	23 (19.8)	13 (11.2)
	7) リーダーシップ	7 (6.0)	22 (19.0)	39 (33.6)	19 (16.4)	6 (5.2)	14 (12.1)	9 (7.8)
	8) マネジメント能力	5 (4.3)	32 (27.6)	44 (37.9)	11 (9.5)	5 (4.3)	10 (8.6)	9 (7.8)
	9) 社会や組織を変えようとする力(アドボカシー)	1 (0.9)	6 (5.2)	19 (16.4)	10 (8.6)	10 (8.6)	47 (40.5)	23 (19.8)
	10) 協調性	33 (28.4)	54 (46.6)	13 (11.2)	2 (1.7)	0 (0.0)	6 (5.2)	8 (6.9)
	11) その他*1	2 (1.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.9)	0 (0.0)	1 (0.9)	112 (96.6)
管理栄養士 養成施設 (専門学校) n=5	1) 管理栄養士の使命感と役割	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	2) 論理的な思考力	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)
	3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	1 (20.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	4) 資料や文献の検索力と読解力	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	5) 課題解決に向けた行動力	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)
	6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)
	7) リーダーシップ	0 (0.0)	1 (20.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)
	8) マネジメント能力	0 (0.0)	2 (40.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)
	9) 社会や組織を変えようとする力(アドボカシー)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	2 (40.0)
	10) 協調性	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
	11) その他	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	5 (100.0)

管理栄養士 養成施設 全体 n=125 ^{*2}	1) 管理栄養士の使命感と役割	40 (32.0)	60 (48.0)	14 (11.2)	1 (0.8)	0 (0.0)	3 (2.4)	7 (5.6)
	2) 論理的な思考力	18 (14.4)	40 (32.0)	39 (31.2)	13 (10.4)	0 (0.0)	8 (6.4)	7 (5.6)
	3) 異なる分野の人との コミュニケーション力	17 (13.6)	50 (40.0)	19 (15.2)	5 (4.0)	2 (1.6)	21 (16.8)	11 (8.8)
	4) 資料や文献の検索力と読解力	18 (14.4)	41 (32.8)	29 (23.2)	18 (14.4)	4 (3.2)	8 (6.4)	7 (5.6)
	5) 課題解決に向けた行動力	11 (8.8)	58 (46.4)	23 (18.4)	14 (11.2)	0 (0.0)	11 (8.8)	8 (6.4)
	6) 多様な価値観に対する 寛容性と理解力	12 (9.6)	47 (37.6)	20 (16.0)	4 (3.2)	3 (2.4)	24 (19.2)	15 (12.0)
	7) リーダーシップ	7 (5.6)	25 (20.0)	42 (33.6)	20 (16.0)	6 (4.8)	15 (12.0)	10 (8.0)
	8) マネジメント能力	5 (4.0)	36 (28.8)	47 (37.6)	11 (8.8)	5 (4.0)	11 (8.8)	10 (8.0)
	9) 社会や組織を変えようとする 力(アドボカシー)	1 (0.8)	8 (6.4)	21 (16.8)	10 (8.0)	10 (8.0)	50 (40.0)	25 (20.0)
	10) 協調性	39 (31.2)	57 (45.6)	13 (10.4)	2 (1.6)	0 (0.0)	6 (4.8)	8 (6.4)
	11) その他	2 (1.6)	0 (0.0)	1 (0.8)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.8)	120 (96.0)

^{*1} その他の記載内容：育人・育心（1），ボランティア精神（1），校訓・真実心（思いやりの心）の醸成（1），社会人基礎力（1），地域連携活動（1）

^{*2} 学校種別不明の4校の詳細は未掲載であるが，管理栄養士養成施設全体へは含む。

全体として，「管理栄養士の使命感と役割」，「協調性」は修得度の高い施設が多かった。一方，「社会や組織を変えようとする力（アドボカシー）」，「リーダーシップ」，「マネジメント能力」の修得度の高い施設は少なかった。

3. 卒業時に得られる学士の名称（自由記述）

単位：施設数（%）

名称に含まれるキーワード ^{*1}	管理栄養士養成施設 （4年制大学） n=116	管理栄養士養成施設 （専門学校） n=5	管理栄養士養成施設 全体 n=125 ^{*3}
栄養学	55 (47.4)	0 (0.0)	56 (44.8)
食品・食物	10 (8.6)	0 (0.0)	10 (8.0)
家政	12 (10.3)	0 (0.0)	12 (9.6)
医療・保健	8 (6.9)	0 (0.0)	9 (7.2)
健康	11 (9.5)	0 (0.0)	11 (8.8)
生活科学	5 (4.3)	0 (0.0)	5 (4.0)
高度専門士	0 (0.0)	3 (60.0)	4 (3.2)
その他 ^{*2}	12 (10.3)	0 (0.0)	12 (9.6)
欠損	3 (2.6)	2 (40.0)	6 (4.8)

^{*1} 学位の名称に複数のキーワードが含まれる場合は，先に出てくるキーワードを優先

^{*2} その他に含まれるキーワード：心身科学，環境，農学，応用生物 等

^{*3} 学校種別不明の4校の詳細は未掲載であるが，管理栄養士養成施設全体へは含む。

回答した119施設の学士の名称は，「栄養学」を含むものが最も多く，「食物」，「健康」，「家政」を含むものもそれぞれ約1割あった。

4. 管理栄養士をめざす気持ちを育む導入教育の実施

単位：施設数（％）

	行っている	行っていない	欠損
管理栄養士養成施設（４年制大学）n=116	108 (93.1)	7 (6.0)	1 (0.9)
管理栄養士養成施設（専門学校）n=5	5 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設 全体 n=125*1	115 (92.0)	8 (6.4)	2 (1.6)

*1 学校種別不明の４校の詳細は未掲載であるが、管理栄養士養成施設全体へは含む。

4-2 導入教育の種類

①管理栄養士の勤務施設等の見学

単位：施設数（％）

	行っている	行っている学年（数のみ）*1					行っていない	欠損
		1年	2年	3年	4年	不明		
管理栄養士養成施設（４年制大学）n=116	40 (34.5)	27	9	3	0	0	76 (65.5)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設（専門学校）n=5	2 (40.0)	2	0	0	0	0	3 (60.0)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設 全体 n=125*2	44 (35.2)	30	10	3	0	0	80 (64.0)	1 (0.8)

*1 学年は複数回答 *2 学校種別不明の４校の詳細は未掲載であるが、管理栄養士養成施設全体へは含む。

■シラバス分析：導入教育の中で、勤務施設の見学を取り入れている大学の教育内容の例

- ・事前学習にて、管理栄養士が勤務する職場や施設の特徴や業務役割を調べる。
- ・各職域訪問にて、管理栄養士と交流することで業務内容や社会的役割の理解を深める。
- ・事後学習として、自分たちが得た知識や今後の抱負等をまとめて、発表(報告)する。

②現役管理栄養士の講話

単位：施設数（％）

	行っている	行っている学年（数のみ）*1					行っていない	欠損
		1年	2年	3年	4年	不明		
管理栄養士養成施設（４年制大学）n=116	89 (76.7)	61	9	4	1	1	27 (23.3)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設（専門学校）n=5	3 (60.0)	3	0	0	0	0	2 (40.0)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設 全体 n=125*2	93 (74.4)	64	9	4	1	2	31 (24.8)	1 (0.8)

*1 学年は複数回答 *2 学校種別不明の４校を含む

■シラバス分析：現役管理栄養士の講話を取り入れている大学の教育内容の例

各職域で活躍する管理栄養士から業務内容や社会的役割について話を聞く。
 職域例：給食施設、老人保健施設、病院（医療機関）、地域活動、スポーツ現場、栄養教諭、研究
 教育施設、行政（保健所、保健センター）、食品会社（フードサービス、食品開発）、

③「導入教育」の教科書を使った授業や演習

単位：施設数（％）

	行っている	行っている学年（数のみ）*1					行っていない	欠損
		1年	2年	3年	4年	不明		
管理栄養士養成施設（４年制大学）n=116	56 (48.3)	54	3	1	0	0	60 (51.7)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設（専門学校）n=5	1 (20.0)	1	0	0	0	0	4 (80.0)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設 全体 n=125*2	58 (46.4)	56	3	1	0	1	66 (52.8)	1 (0.8)

*1 学年は複数回答 *2 学校種別不明の４校を含む

■シラバス分析：導入教育科目で使用されている教科書の例

- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修、伊達ちぐさ、木戸康博編：管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム 2015 準拠，導入教育，信頼される専門職となるために，医歯薬出版
- ・小野章史：めざせ！栄養士・管理栄養士まずはここからナビゲーション，第一出版
- ・奥田豊子ら著：管理栄養士コースで学ぶ！キャリアデザインのために，同文書院
- ・田中浩子編：活躍する管理栄養士 16 人のキャリアデザイン，文理閣
- ・日本栄養士会編：管理栄養士・栄養士必携-データ・資料集 2017 年版，第一出版

④その他

単位：施設数（％）

	行っている	行っている学年（数のみ）*1					行っていない	欠損
		1年	2年	3年	4年	不明		
管理栄養士養成施設（4年制大学） n=116	26 (22.4)	21	3	0	0	0	90 (77.6)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設（専門学校） n=5	3 (60.0)	3	0	0	0	0	2 (40.0)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設 全体 n=125*2	29 (23.2)	24	3	0	0	1	95 (76.0)	1 (0.8)

*1 学年は複数回答

*2 入学前実施の3施設を含む。学校種別不明の4校の詳細は未掲載であるが、管理栄養士養成施設全体へは含む。

その具体的内容（施設数）

- ・導入教育のための演習科目の開講(7)
- ・卒業生や現場の管理栄養士、外部講師による講話(3)
- ・キャリア教育(2)
- ・専任教員による現場の講話(2)
- ・医療施設等の現場見学(2)
- ・宿泊研修(2)
- ・4年間で履修する専門科目と管理栄養士の知識との関連性(1)
- ・学修成果を発表可能な場に参加(1)
- ・グループワーク・プレゼンテーション(1)
- ・ビジネスマナー等(1)
- ・教員が作成した資料を使った授業(1)

■シラバス分析：具体的に配付資料等を用いた導入教育の授業や演習の例

配付資料および参考資料	と	学習内容
・栄養調理六法，新日本法規出版	→	栄養士法および関連法規の学習
・日本食品標準成分表，食事摂取基準	→	食事記録 自分の食生活を評価し改善につなげる学習
・シラバス・専門分野各科目の教科書	→	管理栄養士養成のための教育内容を理解するための学習
・独自のテキストやワークシート	→	早期職域体験学習に向けた事前事後学習 等

管理栄養士をめざす気持ちを育む導入教育の実施に関して、2施設を除く123施設が回答した。全体では、約9割の施設で導入教育が行われていた。その内容として、①管理栄養士の勤務施設等の見学は、約3割の養成施設で1～2年生を中心に行われていた。②現役管理栄養士の講話は、約7割の養成施設で1～2年生を中心に行われていた。③「導入教育」の教科書を使った授業や演習は、約5割の養成施設で1年生を中心に行われていた。また、約2割の養成施設で①～③以外の方法で導入教育を行っていた。

5. 臨地・校外実習（管理栄養士免許に関わる実習）実施状況

5-1 科目名と単位数等

①給食経営管理論・給食の運営

・主な実習先（複数回答）

単位：施設数

	A	B	C	D	E	F	G	H
	病院等 医療施設 (老健含む)	介護老人 福祉施設	児童福祉 施設	その他の 社会福祉 施設	事業所	学校	保健所・ 保健セン ター	その他*2
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	55	90	39	15	81	68	0	5
管理栄養士養成施設 (専門学校)	5	4	2	0	2	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	1	1	0	0	1	1	0	0
管理栄養士養成施設 全体*1	61 (37.7)	95 (58.6)	41 (25.3)	15 (9.3)	84 (51.9)	69 (42.6)	0 (0.0)	5 (3.1)

*1 施設数（％），回答実習数（n=162）に対する割合で示した。なお，回答実習数は1施設につき2科目以上ある場合は重複してカウントした。

*2 その他の記載内容：大学付属幼稚園（1），自衛隊施設（1），セントラルキッチン施設（1），保育所（1），不明（1）

・単位数

単位：施設数

	1 単位				2 単位			
	必修	選択	選択必修	小計	必修	選択	選択必修	小計
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	87	11	33	134 ^{*2}	8	2	2	12
管理栄養士養成施設 (専門学校)	3	2	2	7	1	1	0	2
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	2	0	0	2	1	0	0	1
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	92 (56.8)	13 (8.0)	35 (21.6)	143 (88.3) ^{*2}	10 (6.2)	3 (1.9)	2 (1.2)	15 (9.3)

^{*1} 施設数 (%), 回答実習数 (n=162 (単位数または必修・選択の種別への回答欠損値 (n=5) を含む)) に対する割合で示した。

^{*2} 1 施設において, 1 単位必修および 1 単位選択を重複回答, 必修・選択の種別への回答の欠損値 (n=3) を含む。

・履修学年

単位：施設数

	1 年	2 年	3 年	4 年	3 または 4 年
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	0	2	113	23	9
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	5	4	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	3	0	0
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	0 (0.0)	2 (1.2)	121 (74.7)	27 (16.7)	9 (5.6)

^{*1} 施設数 (%), 回答実習数 (n=162, 欠損値 (n=3) を含む) に対する割合で示した。

「給食経営管理論・給食の運営」分野の主な実習先として多いものから順に, 介護老人福祉施設 (58.6%), 事業所 (51.9%), 学校 (42.6%), 病院等医療施設 (37.7%) であった。実習単位数は, 1 単位必修 (56.8%), 1 単位選択必修 (21.6%) の順に多かった。履修学年は, 3 年生 (74.7%) が最も多かった。

②臨床栄養学分野

・主な実習先 (複数回答)

単位：施設数

	A	B	C	D	E	F	G	H
	病院等 医療施設 (老健含む)	介護老人 福祉施設	児童福祉 施設	その他の 社会福祉 施設	事業所	学校	保健所・ 保健セン ター	その他 ^{*2}
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	138	20	2	0	5	0	6	0
管理栄養士養成施設 (専門学校)	4	1	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	1	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	143 (100.0)	21 (14.7)	2 (1.4)	0 (0.0)	5 (3.5)	0 (0.0)	6 (4.2)	0 (0.0)

^{*1} 施設数 (%), 回答実習数 (n=143) に対する割合で示した。なお, 回答実習数は 1 施設につき 2 科目以上ある場合は重複してカウントした。

・単位数

単位：施設数

	1 単位				2 単位				3 単位			
	必修	選択	選択必修	小計	必修	選択	選択必修	小計	必修	選択	選択必修	小計
管理栄養士養成施設 (4 年制大学)	31	8	23	62 ^{*2}	35	12	10	58 ^{*3}	11	2	2	15
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	0	0	4	0	0	4	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	31 (21.7)	8 (5.6)	23 (16.1)	62 (43.4)	39 (27.3)	12 (8.4)	10 (7.0)	62 (43.4) ^{*3}	12 (8.4)	2 (1.4)	2 (1.4)	16 (11.2)
	4 単位				2 または 3 単位							
	必修	選択	選択必修	小計	必修	選択	選択必修	小計				
管理栄養士養成施設 (4 年制大学)	1	0	0	1	1	0	1	2				
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	0	0	0	0	0	0				
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	0	0	0	0	0	0				
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	1 (0.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.7)	1 (0.7)	0 (0.0)	1 (0.7)	2 (1.4)				

^{*1} 施設数 (%), 回答実習数 (n=143) (単位数または必修・選択の種別への回答欠損値 (n=2) を含む) に対する割合で示した。

^{*2} 1 施設において, 1 単位必修および 1 単位選択を重複回答

^{*3} 必修・選択の種別への回答の欠損値 (n=1) を含む。

・履修学年

単位：施設数

	1 年	2 年	3 年	4 年	3 または 4 年
管理栄養士養成施設 (4 年制大学)	1	0	70	52	12
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	3	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	0	0	1
管理栄養士養成施設全体 ^{*1}	1 (0.7)	0 (0.0)	73 (51.0)	52 (36.4)	13 (9.1)

^{*1} 施設数 (%), 回答実習数 (n=143, 欠損値 (n=4) を含む) に対する割合で示した。

「臨床栄養学」分野の主な実習先は, 回答のあった全施設で, 病院等医療施設 (100.0%) で実習を行っており, 介護老人福祉施設 (14.7%) もあった。実習単位数は, 2 単位必修 (27.3%) が最も多く, 中には 3 単位必修 (8.4%), 4 単位必修 (0.7%) の施設もあった。履修学年は, 3 年生 (51.0%) が最も多く, 次いで 4 年生 (36.4%) であった。

③公衆栄養学分野

・主な実習先（複数回答）

単位：施設数

	A	B	C	D	E	F	G	H
	病院等 医療施設 (老健含む)	介護老人 福祉施設	児童福祉 施設	その他の 社会福祉 施設	事業所	学校	保健所・ 保健セン ター	その他*2
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	0	0	0	0	0	0	97	1
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	0	0	0	0	4	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	0	0	0	0	3	0
管理栄養士養成施設 全体*1	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	104 (100.0)	1 (1.0)

*1 施設数（%），回答実習数（n=104）に対する割合で示した。なお，回答実習数は1施設につき2科目以上ある場合は重複してカウントした。

*2 その他の記載内容：地域包括センター（1）

・単位数

単位：施設数

	1 単位				2 単位			
	必修	選択	選択必修	小計	必修	選択	選択必修	小計
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	36	20	34	91*2	0	1	2	3
管理栄養士養成施設 (専門学校)	1	2	1	4	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	1	2	0	3	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 全体*1	38 (36.5)	24 (23.1)	35 (33.7)	98 (94.2)*2	0 (0.0)	1 (1.0)	2 (1.9)	3 (2.9)

*1 施設数（%），回答実習数（n=104）（単位数または必修・選択の種別への回答欠損値（n=3）を含む）に対する割合で示した。

*2 必修・選択の種別への回答の欠損値（n=1）を含む。

・履修学年

単位：施設数

	1 年	2 年	3 年	4 年	3 または 4 年
管理栄養士養成施設（4年制大学）	0	0	38	54	3
管理栄養士養成施設（専門学校）	0	0	3	1	0
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	0	0	1	1	1
管理栄養士養成施設全体*1	0 (0.0)	0 (0.0)	42 (40.4)	56 (53.8)	4 (3.8)

*1 施設数（%），回答実習数（n=104 欠損値（n=2）を含む）に対する割合で示した。

「公衆栄養学」分野の実習の主な実習先は，回答のあった全ての施設で，保健所・保健センターでの実習を行っていた。実習単位数は，1 単位必修（36.5%），選択必修（33.7%），選択（23.1%）の順に多かった。履修学年は，4 年生（53.8%）が最も多く，次いで 3 年生（40.4%）であった。

④複数科目型（1科目の中に複数分野を含むもの）

・主な実習先（複数回答）

単位：施設数

	A	B	C	D	E	F	G	H
	病院等 医療施設 (老健含む)	介護老人 福祉施設	児童福祉 施設	その他の 社会福祉 施設	事業所	学校	保健所・ 保健セン ター	その他
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	10	6	1	0	4	3	11	1
管理栄養士養成施設 (専門学校)	1	0	0	0	0	0	1	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	11 (78.6)	6 (42.9)	1 (7.1)	0 (0.0)	4 (28.6)	3 (21.4)	12 (85.7)	1 (7.1)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=14，欠損値（n=1）を含む）に対する割合で示した。なお，回答実習数は1施設につき2科目以上ある場合は重複してカウントした。

・単位数（複数回答）

単位：施設数

	1単位 ^{*2}			2単位 ^{*2}			3単位 ^{*2}			4単位 ^{*2}		
	必修	選択	小計	必修	選択	小計	必修	選択	小計	必修	選択	小計
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	0	2	2	2	1	3	4	1	5	2	0	2
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	0 (0.0)	2 (14.3)	2 (14.3)	2 (14.3)	1 (7.1)	3 (21.4)	5 (35.7)	1 (7.1)	5 (35.7)	2 (14.3)	0 (0.0)	2 (14.3)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=14（単位数または必修・選択の種別への回答欠損値（n=1）を含む）に対する割合で示した。

^{*2} 選択必修の回答はなかったため示していない。

・履修学年

単位：施設数

	1年	2年	3年	4年	2または3年	3または4年
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	0	1	4	4	1	2
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	0	1	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 全体 ^{*1}	0 (0.0)	1 (7.1)	4 (28.6)	5 (35.7)	1 (7.1)	2 (14.3)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=14 欠損値（n=1）を含む）に対する割合で示した。

「複数科目型」の主な実習先は保健所・保健センター（85.7%），病院等医療施設（78.6%）であった。実習単位数は，3単位必修（35.7%）が最も多かった。履修学年は，4年生（35.7%）が最も多く，次いで3年生（28.6%）であった。

⑤その他（分野の判別不能を含む）

・主な実習先（複数回答）

単位：施設数

	A	B	C	D	E	F	G	H
	病院等 医療施設 (老健含む)	介護老人 福祉施設	児童福祉 施設	その他の 社会福祉 施設	事業所	学校	保健所・ 保健セン ター	その他*2
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	27	9	7	2	5	7	7	3
管理栄養士養成施設 (専門学校)	1	1	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	3	3	1	0	0	0	0	1
管理栄養士養成施設 全体*1	31 (72.1)	13 (30.2)	8 (18.6)	2 (4.7)	5 (11.6)	7 (16.3)	7 (16.3)	4 (9.3)

*1 施設数（%），回答実習数（n=43，欠損値（n=2）を含む）に対する割合で示した。なお，回答実習数は1施設につき2科目以上ある場合は重複してカウントした。

*2 その他の記載内容：地域，健康管理センター等(1)，宇都宮大学付属農場(1)，保育園(1)，薬局(1)

・単位数

単位：施設数

	1 単位				2 単位				3 単位			
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	14	9	3	26	2	4	2	9*2	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 (専門学校)	1	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	2	2	0	4	0	0	0	0	1	0	0	1
管理栄養士養成施設 全体*1	17 (39.5)	11 (25.6)	4 (9.3)	32 (74.4)	2 (4.7)	4 (9.3)	2 (4.7)	9 (20.9)*2	1 (2.3)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (2.3)

*1 施設数（%），回答実習数（n=43）（単位数または必修・選択の種別への回答欠損値（n=1）を含む）に対する割合で示した。

*2 必修・選択の種別への回答の欠損値（n=1）を含む。

・履修学年

単位：施設数

	1 年	2 年	3 年	4 年	2 または 3 年	3 または 4 年
管理栄養士養成施設 (4年制大学)	1	1	21	11	0	2
管理栄養士養成施設 (専門学校)	0	0	2	0	0	0
管理栄養士養成施設 (学校種別不明)	0	0	2	1	2	0
管理栄養士養成施設 全体*1	1 (2.3)	1 (2.3)	25 (58.1)	12 (27.9)	2 (4.7)	2 (4.7)

*1 施設数（%），回答実習数（n=43）に対する割合で示した。

「その他」の主な実習先は病院等医療施設（72.1%），介護老人福祉施設（30.2%）であった。実習単位数は，1 単位必修（39.5%），1 単位選択（25.6%）の順に多かった。履修学年は，3 年生（58.1%），4 年生（27.9%）の順に多かった。

5-2 臨地・校外実習の合計単位数（複数回答あり）

単位：施設数

	なし				1 単位				2 単位			
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計
管理栄養士養成施設（4 年制大学）	17	79	75	171	13	7	12	32	8	9	10	27
管理栄養士養成施設（専門学校）	0	3	3	6	0	2	1	3	0	0	1	1
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	0	1	3	4	0	0	0	0	0	2	0	2
管理栄養士養成施設全体*1	17 (13.6)	83 (66.4)	81 (64.8)		13 (10.4)	9 (7.2)	13 (10.4)	35 (28.0)	8 (6.4)	11 (8.8)	11 (8.8)	30 (24.0)
	3 単位				4 単位				5 単位			
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計
管理栄養士養成施設（4 年制大学）	15	8	7	30	55	10	11	76	5	1	0	6
管理栄養士養成施設（専門学校）	1	0	0	1	3	0	0	3	1	0	0	1
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	0	0	0	0	2	0	0	2	0	0	0	0
管理栄養士養成施設全体*1	16 (12.8)	8 (6.4)	7 (5.6)	31 (24.8)	60 (48.0)	10 (8.0)	11 (8.8)	81 (64.8)	7 (5.6)	1 (0.8)	0 (0.0)	8 (6.4)
	6 単位				7 単位				8 単位			
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計
管理栄養士養成施設（4 年制大学）	0	0	1	1	0	1	0	1	2	0	0	2
管理栄養士養成施設（専門学校）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設全体*1	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.8)	2 (1.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	2 (1.6)
	10 単位				13 単位							
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計				
管理栄養士養成施設（4 年制大学）	1	0	0	1	0	1	0	1				
管理栄養士養成施設（専門学校）	0	0	0	0	0	0	0	0				
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	0	0	0	0	0	0	0	0				
管理栄養士養成施設全体*1	1 (0.8)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.8)	0 (0.0)	1 (0.8)				

*1 全 125 施設（欠損値（n=1）を含む）における割合（%）を示した。

4 単位（必修）の施設が最も多かった。中には 8 単位（必修）、10 単位（必修）と多くの実習を行っている施設もあった。

5-3 優先的に校外実習を行える施設（複数回答）

単位：施設数

	1	2	3	4	5	6
	附属病院	附属福祉施設	附属小中学校・高等学校	学内の食堂	学外の提携施設 ^{*3}	なし
管理栄養士養成施設（4年制大学）	6	7	3	6	19	77
管理栄養士養成施設（専門学校）	1	1	0	1	0	3
管理栄養士養成施設全体 ^{*1,2}	7 (5.6)	8 (6.5)	3 (2.4)	7 (5.6)	19 (15.2)	83 (66.4)

^{*1} 施設数（%），全 125 施設に対する割合で示した。

^{*2} 学校種別不明の回答はいずれも「なし」が 3 施設であったため表に示していないが，管理栄養士養成施設全体の数には含む。

^{*3} 学外の提携施設の記載内容（施設数）

病院・老健（8），保育園・認定こども園（3），高齢者福祉施設（2），学校（2），委託給食会社（1），自衛隊基地（1），グループ施設内食堂（1），健康福祉プラザ（1）があった。

優先的に実習を行える施設として，附属病院，学内の食堂，学外の提携施設（病院・老健）があった。しかし，優先的な施設を持たない養成施設は 83 施設（66.4%）と多数であった。

6-1 教育カリキュラム（通常授業として実施している教育内容・複数回答）

①管理栄養士養成施設（4年制大学）n=116

	教育内容	して いる	して いない	欠損	実施している場合 （施設数のみ）			
		施設数（%）			必修	選択	選択 必修	欠損
1	管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育	92 (79.3)	24 (20.7)	0 (0.0)	73	13	5	1
2	管理栄養士としての職業倫理教育	88 (75.9)	27 (23.3)	1 (0.9)	67	10	12	1
3	他職種との連携のための教育	49 (42.2)	66 (56.9)	1 (0.9)	33	11	6	0
4	情報のエビデンスを判断するための教育	64 (55.2)	51 (44.0)	1 (0.9)	47	12	7	0
5	その他（インターンシップ・現場体験等）	13	—	—	3	8	0	2
5	その他（現場管理栄養士・先輩の講話）	2	—	—	1	0	1	0
5	その他（その他） ^{*1}	5	—	—	2	2	0	1
5	その他（内容不明）	4	—	—	1	2	1	0

^{*1} その他には，海外実地研修（ハワイ，インドネシア）（1），統計処理（1），ケース教材を用いたケースメソッド（1），元オリンピック強化スタッフからの学び（1），カウンセリング心理学（1）があった。

②管理栄養士養成施設（専門学校）n=5

	教育内容	して いる	して いない	欠損	実施している場合 （施設数のみ）			
		施設数（%）			必修	選択	選択 必修	欠損
1	管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育	5 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	4	1	0	0
2	管理栄養士としての職業倫理教育	3 (60.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	3	0	0	0
3	他職種との連携のための教育	2 (40.0)	3 (60.0)	0 (0.0)	2	0	0	0
4	情報のエビデンスを判断するための教育	4 (80.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	4	0	0	0
5	その他（インターンシップ・現場体験等）	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1	0	0	0

③管理栄養士養成施設（学校種別不明） n=4

	教育内容	している	していない	欠損	実施している場合 (施設数のみ)			
		施設数 (%)			必修	選択	選択必修	欠損
1	管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	2	0	0	2
2	管理栄養士としての職業倫理教育	2 (50.0)	1 (25.0)	1 (25.0)	2	0	0	2
3	他職種との連携のための教育	3 (75.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	2	1	0	0
4	情報のエビデンスを判断するための教育	3 (75.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	3	0	0	0
5	その他（多／他職種連携）	1 (25.0)	0 (0.0)	1 (25.0)	0	1	0	0

④管理栄養士養成施設 全体 n=125

	教育内容	している	していない	欠損	実施している場合 (施設数のみ)			
		施設数 (%)			必修	選択	選択必修	欠損
1	管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育	99 (79.2)	25 (20.0)	1 (0.8)	79	14	5	0
2	管理栄養士としての職業倫理教育	93 (74.4)	30 (24.0)	2 (1.6)	72	10	12	1
3	他職種との連携のための教育	54 (43.2)	69 (55.2)	2 (1.6)	37	12	5	0
4	情報のエビデンスを判断するための教育	71 (56.8)	52 (41.6)	2 (1.6)	54	12	7	0
5	その他	24 (19.2)	99 (79.2)	2 (1.6)	8	13	2	1

■シラバス分析：管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育の例

科目名	管理栄養士基礎演習 ヒューマンケア入門 等		演習	開講期：1年
到達目標	社会における管理栄養士の使命や役割および活動分野の理解を通して、管理栄養士を目指す気持ちを高めること			
教育内容	① 管理栄養士の使命と役割	⑨ 体験学習に向けた自主課題		
	② 管理栄養士のあり方（グループディスカッション）	⑩ 見学研修（医療施設等）		
	③ 管理栄養士の職域別講話(医療施設)	⑪ 見学研修（福祉施設等）		
	④ 管理栄養士の職域別講話(高齢者施設)	⑫ 見学研修（事業所等）		
	⑤ 管理栄養士の職域別講話(保健所・保健センター)	⑬ 見学研修（給食センター等）		
	⑥ 管理栄養士の職域別講話(学校・栄養教諭)	⑭ 早期職域体験学習報告会		
	⑦ 管理栄養士の職域別講話(スポーツ現場)	⑮ 将来の管理栄養士像(グループディスカッション)		
	⑧ 体験学習に向けた自主課題			

■シラバス分析：管理栄養士としての職業倫理教育の例

科目名	管理栄養士入門(概論)、生命倫理論(学)		演習&講義	開講期：1年 前期
到達目標	管理栄養士の使命や役割、栄養学や管理栄養士の発展の歴史、栄養の課題や取り組み、管理栄養士としての職業倫理を身につけること			
教育内容	① 管理栄養士とは 関連法規	⑨ 食事摂取基準と食事記録		
	② 管理栄養士・栄養士の歴史	⑩ 自らの食生活を評価する		
	③ 最近の健康問題と取り組み	⑪ コミュニケーション力		
	④ 管理栄養士の活躍の場	⑫ 地域の栄養課題と取り組み		
	⑤ 生命の尊厳と生命倫理	⑬ 諸外国の栄養の課題と取り組み		
	⑥ 管理栄養士の職業倫理	⑭ 諸外国の管理栄養士の養成とその活動		
	⑦ 管理栄養士養成の教育とカリキュラム	⑮ 学んだ事のグループディスカッション		
	⑧ 管理栄養士に求められる資質とは			

■シラバス分析：他職種との連携のための教育の例

科目名	チーム医療論 チーム形成論 専門職連携論	演習&講義	開講期：1年、4年
到達目標	1つの職種でカバーすることが難しい様々な支援ケースにおいて、多職種協働することの大切さを理解すること。多職種連携による様々な課題解決を疑似体験すること		
教育内容	1年生を対象とした教育例	4年生を対象とした教育例	
	① 専門職間の協働の重要性	① チーム医療概論	
	② 専門職の理解(管理栄養士)	② チーム医療の実際	
	③ 専門職の理解(医療施設)	③ NST 活動	
	④ 専門職の理解(福祉施設)	④ イシデント演習	
	⑤ 専門職の理解(学校)	⑤ ケアプランの作成	
	⑥ 専門職の理解(行政)	⑥ 発表会	

■シラバス分析：情報のエビデンスを判断するための教育の例

科目名	栄養統計処理 栄養情報処理演習 等	演習&講義	開講期：2年～3年
到達目標	管理栄養士として情報を正しく判断する・情報を得る・情報を整理し伝える能力を身につけること		
教育内容	① 情報を整理し伝える 表計算ソフト・表	⑨ 統計の基本 分割表 χ^2 乗検定	
	② 情報を整理し伝える 表計算ソフト・グラフ	⑩ 疫学の基本	
	③ 情報を整理する 表計算ソフト・データ集計	⑪ 学術論文の検索	
	④ 情報を伝える能力 プレゼンソフト	⑫ 健康情報の収集と分析 統計資料	
	⑤ 統計の基本 平均、割合、記述統計	⑬ 健康情報の収集と分析 健康課題	
	⑥ 統計の基本 代表値、分布	⑭ プレゼンテーション演習	
	⑦ 統計の基本 確率統計	⑮ まとめ	
	⑧ 統計の基本 相関、平均値の差の検定		

4年制大学では、管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育、職業倫理教育は約8割で実施されていた。一方、情報のエビデンスを判断するための教育は約5割、他職種との連携のための教育は約4割であった。

専門学校では、管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育はすべての養成施設で実施されていた。情報のエビデンスを判断するための教育は8割、職業倫理教育は6割、他職種との連携のための教育は4割であった。

学校種別不明では、管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育、職業倫理教育は5割の養成施設で実施されていた。情報のエビデンスを判断するための教育、他職種との連携のための教育は7割であった。

全施設では、管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育は約8割、職業倫理教育は約7割の養成施設で実施されていた。一方、情報のエビデンスを判断するための教育は約5割、他職種との連携のための教育は約4割であった。

6-2 通常の授業以外に講演会等の方法で行っているもの（自由記述・複数回答）単位：施設数

	各種講話・講演・セミナー ^{*1}	イベント・ボランティア参加 ^{*2}	現場見学 ^{*3}	現場体験 ^{*4}	研究会活動等 ^{*5}	他大学との交流 ^{*6}	海外研修 ^{*7}	その他 ^{*8}
管理栄養士養成施設（4年制大学）	55	5	6	5	2	3	4	1
管理栄養士養成施設（専門学校）	1	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	1	0	0	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設全体	57	5	6	5	2	3	4	1

^{*1} 各種講話・講演・セミナーの具体的内容：現場管理栄養士・先輩の講話（31）、専門家や他職種の講話（19）、その他（14）（JAと連携したセミナー（1）、栄養士会主宰セミナー（1）、農政局の食料自給率の講演会（1）、学長による建学の精神の講話（1）、内容不明（10））

^{*2} イベント・ボランティア参加の具体的内容：附属幼稚園での食育事業（1）、地域における食育実践体験（1）、児童養護施設との交流（1）、あおもり食育サミット（1）、食育活動におけるボランティア参加（1）

^{*3} 現場見学の具体的内容（複数回答あり）：食品工場（2）、病院（2）、福祉（1）、保育園（1）、給食提供施設（1）、スポーツ栄養関連（JISS、NTC、体育大学など）（1）、給食施設及び関連会社（学校給食センター、CK、厨房機器、食品卸メーカー等）（1）

^{*4} 現場体験の具体的内容：臨地・校外実習以外の関連企業（1）、食と健康のフィールドワーク（サービスマーケティングを単位制にしたもの）（1）、食品工場（1）、研修実習（3、4年次春休み期間での正規外の学外自主実習）（1）、内容不明（1）

^{*5} 研究会活動等の具体的内容：学内で設置した研究会（2）

^{*6} 他大学との交流の具体的内容：他の医療職種を養成する大学との交流（1）、大学合同発表会（1）、弘前保健研究会（6大学）（1）

^{*7} 海外研修の具体的内容：国際栄養学演習（海外研修（アメリカ合衆国）を単位制にしたもの）／国際栄養・食文化演習（海外研修（オーストラリア）を単位制にしたもの）（1）、ベトナム栄養研修（1）、日タイ韓食文化プログラム（1）、海外農業体験実習（1）、

^{*8} その他の具体的内容：新入生特別研修（1）

全125施設中57施設で、通常の授業以外で上記内容の教育が行われていた。特に各種講話・講演・セミナー（現場管理栄養士・先輩の講話）を行っている施設が多かった。

7. 管理栄養士資格以外に取得可能な資格（平成29年度現在・複数回答）単位：施設数（%）

	1	2 ^{*1}	3	4	5	6	7	8	9	10 ^{*2}
	栄養教諭一種免許	中学校・高等学校教諭一種免許	食品衛生管理者	食品衛生監視員	健康運動指導士	健康運動実践指導者	フードスペシャリスト	フードコーディネーター	NR・サプリメントアドバイザー	その他
管理栄養士養成施設（4年制大学）	110 (94.8)	21 (18.1)	89 (76.7)	88 (75.9)	0 (0.0)	10 (8.6)	36 (31.0)	0 (0.0)	16 (13.8)	18 (15.5)
管理栄養士養成施設（専門学校）	1 (20.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	2 (40.0)
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	3 (75.0)	0 (0.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設全体	114 (91.2)	21 (16.8)	91 (72.8)	90 (72.0)	0 (0.0)	10 (8.0)	36 (28.8)	1 (0.8)	17 (13.6)	20 (16.0)

^{*1} 栄養教諭以外の教員免許の種類：家庭科（17）、理科（2）、未記入（2）

^{*2} その他の記載内容（複数回答あり）：健康食品管理士（4）、医療薬膳士（1）、HACCP管理者（3）、レクリエーションインストラクター（2）、食品表示検定（1）、社会福祉主事（任用資格）（7）、司書教諭（1）、司書（任用資格）（2）、MOS資格（1）、漢字検定（1）、食育栄養インストラクター（2）、介護職員初任者研修（1）

管理栄養士以外に取得可能な資格では、栄養教諭（一種免許）が約9割、食品衛生管理者、食品衛生監視員が約7割と多かった。

8. 卒業研究の卒業要件における位置づけ（複数回答）

単位：施設数（%）

	1	2	3	4	5	6
	必修*1	選択*2	選択必修*3	卒業要件に含めない*4	その他*5	欠損
管理栄養士養成施設（4年制大学）	62 (53.5)	40 (34.5)	4 (3.4)	9 (7.7)	1 (0.9)	0 (0.0)
管理栄養士養成施設（専門学校）	2 (40.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	1 (20.0)	1 (20.0)
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	3 (75.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (25.0)
管理栄養士養成施設 全体	67 (53.6)	40 (32.0)	4 (3.2)	10 (8.0)	2 (1.6)	2 (1.6)

*1 必修の場合の単位数（数字は施設数）

	2	3	4	6	8	10	12	欠損
管理栄養士養成施設（4年制大学）	5	1	32	12	8	1	2	1
管理栄養士養成施設（専門学校）	0	1	1	0	0	0	0	0
管理栄養士養成施設（学校種別不明）	1	0	1	0	0	1	0	0
管理栄養士養成施設 全体	6	2	34	12	8	2	2	1

*2 選択の場合、例年、約何名の学生が履修しているか。

単位：人

	回答施設数	平均値	標準偏差	最小－最大
管理栄養士養成施設（4年制大学）	43	53.4	37.0	0-210
管理栄養士養成施設 全体*	43	53.4	37.0	0-210

* 専門学校、学校種別不明の回答はなかったため示していない。
「選択」ではないが本項目に回答した施設も含む。

*3 選択必修の場合、例年、約何名の学生が履修しているか。

単位：人

	回答施設数	平均値	標準偏差	最小－最大
管理栄養士養成施設（4年制大学）	4	43.8	26.3	20-80
管理栄養士養成施設 全体*	4	43.8	26.3	20-80

* 専門学校、学校種別不明の回答はなかったため示していない。

*4 卒業要件に含めない場合、卒業研究に代わる科目や課題を課しているか。

単位：施設数（%）

	回答施設数	課している ^a	課していない	欠損
管理栄養士養成施設（4年制大学）	15	4	11	0
管理栄養士養成施設（専門学校）	1	0	1	0
管理栄養士養成施設 全体*	16	4	12	0

^a 課している内容：ゼミによる活動（1）、1年通年科目であり、各教員による課題（1）、専攻演習2単位（1）、応用調理実習を選択することができる（1）

* 学校種別不明の回答はなかったため示していない。
「卒業要件に含めない」ではないが本項目に回答した施設も含む。

*5 その他の内容

卒業研究は実施していない（2）、卒業研究と関連して、研究法（演習）6単位を卒業必修としている（1）

卒業研究に関しては、全体のうち約5割が必修、約3割が選択、約1割が卒業要件に含めていなかった。必修の場合、単位数は4単位が最も多かった。また、卒業要件に含めない場合、それに代わる課題を課している養成施設は16施設中4施設であった。

9. 教員が行っている「現場と連携した栄養改善に関わる実践的研究」（複数回答）

■管理栄養士養成施設（4年制大学）の①公衆栄養学分野、②臨床栄養学分野、

③給食経営管理論分野、④応用栄養学分野、⑤栄養教育論分野の教員

	①公衆栄養学 分野	②臨床栄養学 分野	③給食経営管 理論分野	④応用栄養学 分野	⑤栄養教育論 分野
件数（施設数）	86	91	76	54	104
うち学生と一緒に行って いる件数（施設数）	71	81	65	41	87

		①公衆栄養学 学分野		②臨床栄養学 学分野		③給食経営 管理論分野		④応用栄養学 学分野		⑤栄養教育論 論分野	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
連 携 先	地域（自治体）	52	60.5	20	22.0	18	23.4	8	14.8	23	22.1
	病院等（医療施設）	3	3.5	48	52.7	4	5.2	4	7.4	6	5.8
	介護施設等（社会福祉施設）	0	0.0	2	2.2	6	7.8	2	3.7	0	0.0
	保育所（児童福祉施設）・幼稚園	3	3.5	0	0.0	3	3.9	2	3.7	11	10.6
	学校（小・中・高・大）	9	10.5	2	2.2	11	14.3	19	35.2	39	37.5
	企業・会社	2	2.3	5	5.5	16	20.8	3	5.6	6	5.8
	飲食店	0	0.0	0	0.0	2	2.6	0	0.0	2	1.9
	職能団体（栄養士会・医師会等）	1	1.2	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他の団体・組合（JA, NPO, 社協等）	3	3.5	1	1.1	1	1.3	0	0.0	3	2.9
	スポーツ施設・スポーツチーム	1	1.2	1	1.1	1	1.3	8	14.8	3	2.9
	その他	1	1.2	1	1.1	1	1.3	0	0.0	0	0.0
	不明	11	12.8	11	12.1	13	16.9	8	14.8	11	10.6
	合計	86	100.0	91	100.0	76	100.0	54	100.0	104	100.0
対 象 者	妊産婦	3	3.5	3	3.3	0	0.0	2	3.7	1	1.0
	乳幼児 ^{*1}	5	5.8	0	0.0	3	3.9	3	5.6	14	13.5
	児童・生徒 ^{*1}	6	7.0	1	1.1	11	14.5	3	5.6	26	25.0
	学生（短大・大学・専門学校生） ^{*1}	2	2.3	1	1.1	3	3.9	2	3.7	2	1.9
	一般成人	49	57.0	24	26.4	36	47.4	9	16.7	27	26.0
	高齢者	6	7.0	7	7.7	6	7.9	5	9.3	6	5.8
	スポーツ選手（スポーツしている人）	3	3.5	1	1.1	3	3.9	23	42.6	17	16.3
	傷病者	0	0.0	48	52.7	3	3.9	3	5.6	5	4.8
	障がい者	1	1.2	3	3.3	2	2.6	0	0.0	1	1.0
	その他	3	3.5	0	0.0	5	6.6	3	5.6	2	1.9
	不明	8	9.2	2	2.2	4	5.3	1	1.9	3	2.9
	合計	86	100	91	100.0	76	100.0	54	100.0	104	100.0
研 究 内 容	栄養・食事調査（介入なし）	43	50.0	47	51.6	14	18.4	10	18.5	21	20.2
	栄養・食事・その他の介入調査	0	0.0	7	7.7	1	1.3	2	3.7	10	9.6
	食品・商品開発・地元食材の活用等	0	0.0	3	3.3	6	7.9	0	0.0	1	1.0
	メニューや弁当開発	9	10.5	8	8.8	23	30.3	4	7.4	5	4.8
	災害食開発	0	0.0	1	1.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養教育教材・プログラム開発	0	0.0	1	1.1	2	2.6	0	0.0	12	11.5
	栄養サポート実践	4	4.7	12	13.2	5	6.6	22	40.7	15	14.4
	食育活動・食育事業実践 ^{*2}	13	15.1	4	4.4	11	14.5	6	11.1	26	25.0
	食育以外の栄養改善事業実践 ^{*2}	12	14.0	6	6.6	6	7.9	3	5.6	7	6.7
	その他	2	2.3	1	1.1	4	5.3	3	5.6	6	5.8
	不明	3	3.5	1	1.1	4	5.3	4	7.4	1	1.0
	合計	86	100.0	91	100.0	76	100.0	54	100.0	104	100.0

^{*1} 疾患をもっていない対象者

^{*2} イベント・教室開催等への協力も含む

^{*3} 専門学校、学校種別不明の回答は少数（n=4以下）または回答なしであったため示していない。

■管理栄養士養成施設（４年制大学）の⑥基礎栄養学分野、⑦調理学分野、

⑧食品学分野、⑨公衆衛生学分野、⑩医学系分野の教員

	⑥基礎栄養学 分野	⑦調理学 分野	⑧食品学 分野	⑨公衆衛生学 分野	⑩医学系 分野
件数（施設数）	9	23	9	3	8
うち学生と一緒に いる件数（施設数）	9	22	8	3	5

		⑥基礎栄養学 学分野		⑦調理学 分野		⑧食品学 分野		⑨公衆衛生学 学分野		⑩医学系 分野	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
連携先	地域（自治体）	4	44.4	8	34.8	1	11.1	2	66.7	2	25.0
	病院等（医療施設）	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	62.5
	介護施設等（社会福祉施設）	0	0.0	2	8.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	保育所（児童福祉施設）・幼稚園	1	11.1	2	8.7	1	11.1	0	0.0	1	12.5
	学校（小・中・高・大）	0	0.0	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	企業・会社	0	0.0	4	17.4	1	11.1	0	0.0	0	0.0
	飲食店	0	0.0	0	0.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0
	職能団体（栄養士会・医師会等）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他の団体・組合（JA, NPO, 社協等）	0	0.0	1	4.3	2	22.2	0	0.0	0	0.0
	スポーツ施設・スポーツチーム	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	2	22.2	5	21.7	3	33.3	1	33.3	0	0.0
	合計	9	100.0	23	100.0	9	100.0	3	100.0	8	100.0
対象者	妊産婦	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	乳幼児 ^{*1}	1	11.1	1	4.3	1	11.1	0	0.0	1	12.5
	児童・生徒 ^{*1}	1	11.1	3	13.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	学生（短大・大学・専門学校生） ^{*1}	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般成人	3	33.3	16	69.6	7	77.8	1	33.3	1	12.5
	高齢者	3	33.3	2	8.7	1	11.1	1	33.3	1	12.5
	スポーツ選手（スポーツしている人）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	傷病者	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	50.0
	障がい者	0	0.0	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	1	12.5
	合計	9	100.0	23	100.0	9	100.0	3	100.0	8	100.0
研究内容	栄養・食事調査（介入なし）	2	22.2	2	8.7	1	11.1	0	0.0	4	50.0
	栄養・食事・その他の介入調査	0	0.0	0	0.0	1	11.1	0	0.0	1	12.5
	食品・商品開発・地元食材の活用等	0	0.0	3	13.0	4	44.4	0	0.0	0	0.0
	メニューや弁当開発	1	11.1	5	21.7	2	22.2	0	0.0	1	12.5
	災害食開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養教育教材・プログラム開発	0	0.0	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養サポート実践	1	11.1	1	4.3	0	0.0	0	0.0	1	12.5
	食育活動・食育事業実践 ^{*2}	2	22.2	7	30.4	0	0.0	1	33.3	0	0.0
	食育以外の栄養改善事業実践 ^{*2}	3	33.3	3	13.0	1	11.1	1	33.3	1	12.5
	その他	0	0.0	1	4.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0
	合計	9	100.0	23	100.0	9	100.0	3	100.0	8	100.0

^{*1} 疾患をもっていない対象者

^{*2} イベント・教室開催等への協力も含む

^{*3} 専門学校、学校種別不明の回答は少数（n=5以下）または回答なしであったため示していない。

■管理栄養士養成施設（４年制大学）の⑪学校栄養教育（教職）分野、

⑫運動・スポーツ系分野，⑬その他の分野の教員

	⑪学校栄養教育 (教職) 分野	⑫運動・スポー ツ系分野	⑬その他の 分野
件数 (施設数)	5	10	8
うち学生と一緒に行って いる件数 (施設数)	3	9	3

		⑥基礎栄養 学分野		⑦調理学 分野		⑧食品学 分野	
		n	%	n	%	n	%
連 携 先	地域 (自治体)	1	20.0	3	30.0	3	37.5
	病院等 (医療施設)	0	0.0	0	0.0	1	12.5
	介護施設等 (社会福祉施設)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	保育所 (児童福祉施設) ・ 幼稚園	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	学校 (小・中・高・大)	4	80.0	2	20.0	1	12.5
	企業・会社	0	0.0	1	10.0	1	12.5
	飲食店	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	職能団体 (栄養士会・医師会等)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他の団体・組合 (JA, NPO, 社協 等)	0	0.0	0	0.0	1	12.5
	スポーツ施設・スポーツチーム	0	0.0	2	20.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	2	20.0	1	12.5
	合計	5	100.0	10	100.0	8	100
対 象 者	妊産婦	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	乳幼児 ^{*1}	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	児童・生徒 ^{*1}	3	60.0	0	0.0	0	0.0
	学生 (短大・大学・専門学校生) ^{*1}	0	0.0	0	0.0	1	12.5
	一般成人	1	20.0	2	20.0	4	50.0
	高齢者	1	20.0	1	10.0	0	0.0
	スポーツ選手 (スポーツしている人)	0	0.0	6	60.0	1	12.5
	傷病者	0	0.0	0	0.0	1	12.5
	障がい者	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	1	10.0	1	12.5
	合計	0	100.0	10	100.0	8	100.0
研 究 内 容	栄養・食事調査 (介入なし)	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養・食事・その他の介入調査	0	0.0	2	20.0	1	12.5
	食品・商品開発・地元食材の活用等	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	メニューや弁当開発	1	20.0	0	0.0	1	12.5
	災害食開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養教育教材・プログラム開発	2	40.0	0	0.0	1	12.5
	栄養サポート実践	1	20.0	5	50.0	0	0.0
	食育活動・食育事業実践 ^{*2}	1	20.0	1	10.0	1	12.5
	食育以外の栄養改善事業実践 ^{*2}	0	0.0	1	10.0	2	25.0
	その他	0	0.0	0	0.0	1	12.5
	不明	0	0.0	1	10.0	1	12.5
	合計	5	100.0	10	100.0	8	100.0

^{*1} 疾患をもっていない対象者

^{*2} イベント・教室開催等への協力も含む

^{*3} 専門学校，学校種別不明は回答なしであったため示していない。

公衆栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 86 件あり，連携先は地域 (自治体) (60.5%)，対象者は一般成人 (57.0%)，内容は栄養・食事調査 (介入なし) (50.0%) が最も多かった。

臨床栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 91 件あり、連携先は病院 (52.7%)、対象者は傷病者 (52.7%)、内容は栄養・食事調査 (介入なし) (51.6%) が最も多かった。

給食経営管理論分野の教員の実践的研究は延べ 76 件あり、連携先は地域 (自治体) (23.4%) と企業・会社 (20.8%)、対象者は一般成人 (47.4%)、内容はメニューや弁当開発 (30.3%) が最も多かった。

応用栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 54 件あり、連携先は学校 (小・中・高・大) (35.2%)、対象者はスポーツ選手 (スポーツをしている人) (42.6%)、内容は栄養サポート実践 (40.7%) が最も多かった。

栄養教育論分野の教員の実践的研究は延べ 104 件あり、連携先は学校 (小・中・高・大) (37.5%)、対象者は一般成人 (26.0%) と児童・生徒 (25.0%)、内容は食育活動・食育事業実践 (25.0%) が最も多かった。

基礎栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 9 件あり、連携先は地域 (自治体) (44.4%)、対象者は一般成人 (33.3%) と高齢者 (33.3%)、内容は食育以外の栄養改善事業実践 (33.3%) が最も多かった。

調理学分野の教員の実践的研究は延べ 23 件あり、連携先は地域 (自治体) (34.8%)、対象者は一般成人 (69.6%)、内容は食育活動・食育事業実践 (30.4%) が最も多かった。

食品学分野の教員の実践的研究は延べ 9 件あり、連携先は不明 (33.3%)、対象者は一般成人 (77.8%)、内容は食品・商品開発・地元食材の活用等 (44.4%) が最も多かった。

公衆衛生学分野の教員の実践的研究は延べ 3 件あり、連携先は地域 (自治体) (66.7%)、対象者は一般成人と高齢者、不明 (各 33.3%)、内容は食育活動・食育事業実践と食育以外の栄養改善事業実践、不明 (各 33.3%) が最も多かった。

医学系分野の教員の実践的研究は延べ 8 件あり、連携先は病院 (62.5%)、対象者は傷病者 (50.0%)、内容は栄養・食事調査 (介入なし) (50.0%) が最も多かった。

学校栄養教育 (教職) 分野の教員の実践的研究は延べ 5 件あり、連携先は学校 (小・中・高・大) (80.0%)、対象者は児童・生徒 (60.0%)、内容は栄養教育教材・プログラム開発 (40.0%) が最も多かった。

運動・スポーツ系分野の教員の実践的研究は延べ 10 件あり、連携先は地域 (自治体) (30.0%)、対象者はスポーツ選手 (スポーツをしている人) (60.0%)、内容は栄養サポート実践 (50.0%) が最も多かった。

その他の分野の教員の実践的研究は延べ 8 件あり、連携先は地域 (自治体) (37.5%)、対象者は一般成人 (50.0%)、内容は食育以外の栄養改善事業実践 (50.0%) が最も多かった。

Ⅲ. 平成 28 年度卒業生の進路状況

1 管理栄養士課程の卒業人数

単位:人数の中央値(最小値—最大値)

	管理栄養士養成施設 (4 年制大学) n=105	管理栄養士養成施設 (専門学校) n=5	管理栄養士養成施設 (学校種別不明) n=3	管理栄養士養成施設 全体 n=113
管理栄養士養成課程 卒業人数	78 (14-232)	42 (26-79)	77 (40-93)	77 (14-232)

2 進路状況 (卒業人数あたりの割合)

単位:%の中央値(最小値—最大値)

	管理栄養士 養成施設 (4 年制大学) n=102	管理栄養士 養成施設 (専門学校) n=5	管理栄養士 養成施設 (学校種別不明) n=3	管理栄養士 養成施設 全体 n=110
1) 資格・専門性を活かして 就職した者	76.4 (0.0-100.0)	91.1 (69.1-100.0)	82.8 (55.0-89.6)	78.5 (0.0-100.0)
①病院等医療施設 (老健施設も含む)	11.8 (0.0-44.2)	16.7 (6.9-31.6)	15.6 (15.1-20.0)	12.3 (0.0-44.2)
②介護老人福祉施設	3.7 (0.0-20.7)	6.9 (2.4-26.9)	3.9 (0.0-5.4)	3.8 (0.0-26.9)
③児童福祉施設	5.2 (0.0-15.1)	12.1 (6.3-18.4)	6.5 (1.1-7.5)	5.6 (0.0-18.4)
④その他の社会福祉施設	1.2 ^{*1} (0.0-13.9)	0.3 ^{*1} (0.0-1.7)	0.0 ^{*1} (0.0-0.0)	1.2 ^{*1} (0.0-13.9)
⑤保健所・保健センター	1.4 ^{*1} (0.0-10.0)	0.3 ^{*1} (0.0-1.3)	1.7 ^{*1} (0.0-5.0)	1.3 ^{*1} (0.0-10.0)
⑥学校	2.6 (0.0-16.3)	0.8 ^{*1} (0.0-2.4)	2.5 ^{*1} (0.0-7.5)	2.4 (0.0-16.3)
⑦フードサービス・ 給食委託会社	17.9 (0.0-72.6)	26.9 (19.1-49.4)	12.9 (7.5-31.2)	18.4 (0.0-72.6)
⑧健康・スポーツ関連施設	0.8 ^{*1} (0.0-12.1)	2.4 (0.0-5.2)	1.7 ^{*1} (0.0-5.1)	0.9 ^{*1} (0.0-12.1)
⑨食品開発・食品製造	5.9 (0.0-40.0)	3.8 (2.6-4.8)	2.6 (2.5-7.5)	5.1 (0.0-40.0)
⑩薬局・ドラッグストア	8.1 (0.0-30.8)	7.9 (0.0-8.9)	16.9 (5.0-38.7)	8.2 (0.0-38.7)
⑪その他	2.4 (0.0-54.3)	3.0 ^{*1} (0.0-7.9)	0.7 ^{*1} (0.0-2.2)	6.2 (0.0-54.3)
2) 進学した者	1.5 (0.0-56.8)	1.5 ^{*1} (0.0-5.3)	2.5 (1.3-16.1)	1.5 (0.0-56.8)
①栄養関連大学院へ進学	1.1 (0.0-53.7)	0.5 ^{*1} (0.0-2.4)	2.5 (0.0-16.1)	1.1 (0.0-53.7)
②①以外の大学院へ進学	0.7 ^{*1} (0.0-8.8)	0.0 ^{*1} (0.0-0.0)	0.4 ^{*1} (0.0-1.3)	0.6 ^{*1} (0.0-8.8)
③上記以外の進学	0.3 ^{*1} (0.0-4.0)	1.1 ^{*1} (0.0-5.3)	0.0 ^{*1} (0.0-0.0)	0.3 ^{*1} (0.0-5.3)
3) その他 ^{*2}	15.0 (0.0-63.9)	8.7 (0.0-28.6)	10.4 (1.1-42.5)	14.6 (0.0-63.9)

*1 中央値が 0 の場合、参考値として平均値を示した

*2 その他の主な記載内容 (施設数のカウント不能)

一般企業・民間企業、自営業、栄養士以外の就職、公務員一般職、総合営業職、警察官、自衛隊、就職活動中、
出産・育児、アルバイト、不明

全体として卒業生の約 8 割が資格・専門性を活かして就職していた。その中では、フードサービス・給食委託会社が約 2 割と最も多く、次いで病院等医療施設が約 1 割、薬局・ドラッグストアが約 1 割であった。また、進学した者は約 0.1 割であり、その大部分は栄養関連大学院への進学であった。

栄養士養成施設結果(有効回答:100 施設)

1. 栄養士養成課程の入学定員数

単位：人

	回答数	平均値	標準偏差	中央値	最小－最大
栄養士養成施設（短大）	83	68.4	32.1	60	25-160
栄養士養成施設（短大・専攻科）	1	15	－	－	－
栄養士養成施設（大学）	13	70.4	28.6	80	10-120
栄養士養成施設（専門学校）	1	140	－	－	－
栄養士養成施設（学校種別不明）	1	80	－	－	－
栄養士養成施設全体	99	69.0	32.3	60	10-160

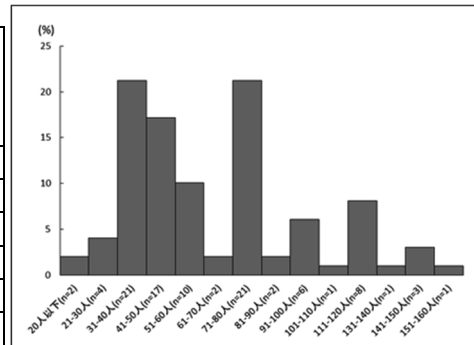


図 1 栄養士養成施設入学定員

1-2 平成 28 年度に栄養士の資格を活かして就職した者と

管理栄養士課程へ進学（編入学）した者の割合

単位：%

	回答数	栄養士の資格を活かして就職した者の割合※1				管理栄養士課程へ進学（編入学）した者の割合※1			
		平均値	標準偏差	中央値	最小－最大	平均値	標準偏差	中央値	最小－最大
栄養士養成施設（短大）	83	60.9	21.4	65	0-100	3.0	4.4	1.0	0-23
栄養士養成施設（短大・専攻科）	1	100.0	－	－	－	0.0	－	－	－
栄養士養成施設（大学）	12	29.9	18.3	25	10-70	0.3	0.9	0	0-3
栄養士養成施設（専門学校）	1	75.0	－	－	－	7.8	－	－	－
栄養士養成施設（学校種別不明）	1	80.0	－	－	－	0.0	－	－	－
栄養士養成施設全体	98	57.9	23.6	60	0-100	2.7	4.2	1.0	0-23

※1 1 学年あたりの定員を母数とした、およその割合

栄養士養成施設の入学定員数は、専攻科 1 施設を除く 99 施設が回答した。入学定員は 10～160 人の範囲にあり、中央値 60 人、平均 69.0（標準偏差〔以下 s.d. と記す〕 32.3）人であった。31～40 人と 71～80 人の 2 か所にピークがみられた（回答 99 施設）。

平成 28 年度に栄養士の資格を活かして就職した者と管理栄養士養成課程へ進学（編入学）した者に関して、専攻科、大学各 1 施設を除く 98 施設が回答し、約 6 割が栄養士の資格を活かして就職していた。また、平成 28 年度に管理栄養士課程へ進学（編入学）した学生の割合は、中央値 1.0%、平均 2.7%（短大 3.0%、専攻科 0%、大学 0.3%、専門学校 7.8%）であった。

2. 卒業時に得られる学位の名称

単位：施設数（%）

	学士	短期大学士	その他	欠損
栄養士養成施設（短大）	0 (0.0)	82 (98.8)	0 (0.0)	1 (1.2)
栄養士養成施設（短大・専攻科）	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)
栄養士養成施設（大学）	13 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専門学校）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
栄養士養成施設（学校種別不明）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
栄養士養成施設全体（n=100）	14 (14.0)	82 (80.0)	0 (0.0)	4 (4.0)

回答した 96 施設の学位名称は、学士は専攻科と大学の 14 施設、短期大学士は短大の 82 施設であった。「栄養」を含む学位名称は、学士では 14 施設中 7 施設、短期大学士では 82 施設中 45 施設で付与されていた。

3. 栄養士をめざす気持ちを育む導入教育を行っていますか。

単位：施設数（％）

	行っている	行っていない	欠損
栄養士養成施設（短大）	76 (91.6)	6 (7.2)	1 (1.2)
栄養士養成施設（短大・専攻科）	1 (50.0)	0 (0.0)	1 (50.0)
栄養士養成施設（大学）	12 (92.3)	1 (7.7)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専門学校）	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（学校種別不明）	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設全体（n=100）	91 (91.0)	7 (7.0)	2 (2.0)

3-2 導入教育の種類

①栄養士の勤務施設の見学

単位：施設数（％）

	行っている	行っている場合の学年（数のみ）*					行っていない	欠損
		1年	2年	3年	4年	欠損		
栄養士養成施設（短大）	23 (29.9)	14	10	－	－	0	53 (68.8)	1 (1.3)
栄養士養成施設（短大・専攻科）	1 (50.0)	1	0	－	－	0	0 (0.0)	1 (50.0)
栄養士養成施設（大学）	1 (8.3)	1	0	0	0	0	11 (91.7)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専門学校）	1 (100.0)	1	0	－	－	0	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（学校種別不明）	1 (33.3)	1	0	0	0	0	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設全体（n = 93）	27 (29.0)	18	10	0	0	0	64 (68.8)	2 (2.2)

* 学年は複数回答

■シラバス分析：勤務施設の見学を取り入れた教育内容の例

- ・事前学習で、栄養士が勤務する職場や施設の特徴や業務内容を調べるとともに、マナーを学習する。
- ・各施設訪問にて、栄養士の業務内容への理解を深める。
- ・事後学習として、自分たちが得た知識や今後の抱負等をまとめ、発表（報告）する。

②現役栄養士による講話

単位：施設数（％）

	行っている	行っている場合の学年（数のみ）*					行っていない	欠損
		1年	2年	3年	4年	欠損		
栄養士養成施設（短大）	68 (88.3)	55	27	－	－	1	8 (10.4)	1 (1.3)
栄養士養成施設（短大・専攻科）	1 (50.0)	1	1	－	－	0	0 (0.0)	1 (50.0)
栄養士養成施設（大学）	8 (66.7)	4	1	1	2	0	4 (33.3)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専門学校）	1 (100.0)	1	0	－	－	0	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（学校種別不明）	1 (33.3)	1	0	0	0	0	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設全体（n = 93）	79 (84.9)	62	29	1	2	1	12 (12.9)	2 (2.2)

* 学年は複数回答

■シラバス分析：現役栄養士による講話を取り入れた教育内容の例

- ・各職域で活躍する栄養士から、最新で実践的な指導方法や社会的役割について話を聞く。
- ・職域例：学校給食センター、保育園、老人介護施設、病院（医療機関）、地域活動、スポーツ現場、行政（保健センター）、食品会社（菓子製造開発）、等。

③「導入教育」の教科書を使った授業や演習

単位：施設数（％）

	行っている	行っている場合の学年（数のみ）*1					行っていない	欠損
		1年	2年	3年	4年	欠損		
栄養士養成施設（短大）	23 (29.9)	22	1	－	－	0	53 (68.8)	1 (1.3)
栄養士養成施設（短大・専攻科）	0 (0.0)	0	0	－	－	－	1 (50.0)	1 (50.0)
栄養士養成施設（大学）	3 (25.0)	0	0	0	0	0	9 (75.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専門学校）	0 (0.0)	0	0	－	－	－	1 (100.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（学校種不明）	0 (0.0)	0	0	0	0	0	1 (33.3)	0 (0.0)
栄養士養成施設全体（n = 93）	26 (28.0)	25	1	0	0	0	65 (69.8)	2 (2.2)

*1 学年は複数回答 *2 「入学前」と回答した1施設を含む。

■シラバス分析：導入教育科目で使用されている教科書の例

- ・小野章史：めざせ！栄養士・管理栄養士まずはここからナビゲーション，第一出版株式会社
- ・特定非営利活動法人日本栄養改善学会監修，伊達ちぐさ，木戸康博編：管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム 2015 準拠，導入教育 信頼される専門職となるために，医歯薬出版株式会社

④その他

単位：施設数（％）

	行っている	行っている場合の学年（数のみ）*1					行っていない	欠損
		1年*2	2年	3年	4年	欠損		
栄養士養成施設（短大）	26 (33.8)	24	3	－	－	0	50 (64.9)	1 (1.3)
栄養士養成施設（短大・専攻科）	0 (0.0)	0	0	－	－	0	1 (50.0)	1 (50.0)
栄養士養成施設（大学）	5 (41.7)	5	2	1	1	0	7 (58.3)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専門学校）	0 (0.0)	0	0	－	－	0	1 (100.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（学校種別不明）	0 (0.0)	0	0	0	0	0	1 (33.3)	0 (0.0)
栄養士養成施設全体（n = 93）	31 (33.3)	29	5	1	1	0	60 (64.5)	2 (2.2)

*1 学年は複数回答，*2 入学前に実施した4施設を含む

その他の具体的内容（施設数・複数回答）

- ・演習科目等による指導(7)
- ・卒業生・企業担当者等による講話等(6)
- ・「導入教育」以外のテキスト（既製品／オリジナル）を使用した教育(4)
- ・入学前の教育・ガイダンス等(4)
- ・調理実習・献立作成演習等を通じた導入教育(4)
- ・ボランティア・イベントへの参加等(3)
- ・キャリアガイダンス等(3)
- ・栄養士業務現場・食品工場等見学(2)
- ・栄養士会等連携講座等(2)
- ・実験を通じた導入教育(2)
- ・インターンシップ(1)
- ・プレゼンセミナー(1)
- ・その他(1)

■シラバス分析：配付資料を用いた導入教育の授業や演習の例

- ・独自のテキストやワークシート → 早期職域体験学習に向けた事前事後学習，労働法について学ぶ
- ・キャリアガイダンス資料→栄養士としての職業観を形成する，栄養士としてのキャリア形成を考える
- ・日本食品標準成分表，食事摂取基準 → 食品標準成分表の使い方や活用方法を知る
- ・栄養調理六法，新日本法規出版 → 栄養士法および関連法規の学習

栄養士をめざす気持ちを育む導入教育に関して，短大，専攻科各1施設を除く98施設が回答し，約9割の施設で導入教育が行われていた。栄養士が勤務施設する施設の見学は約3割の養成施設で，1～2年生の間，現役栄養士による講話は約85%の養成施設で，主に1～2年生の間，教科書を使った授業や演習は約3割の養成施設で，主に1年生で実施されていた。また，約3割の養成施設で，①～③以外の方法で導入教育を行っていた。

4. 校外実習（栄養士免許に関わる実習）実施状況

4-1 科目名と単位数等

① 給食関連（科目名：給食管理実習／給食経営管理実習／校外実習／学外実習等）

・主な実習先（複数回答）

単位：施設数

	A	B	C	D	E	F	G	H
	病院等医療施設 (老健含む)	介護老人福祉施設	児童福祉施設	その他の 社会福祉施設	事業所	学校	保健所・ 保健センター	その他
栄養士養成施設 (短大)	71	63	52	4	36	36	1	0
栄養士養成施設 (短大・専攻科)	1	1	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設 (大学)	6	4	3	0	9	10	0	0
栄養士養成施設 (専門学校)	1	0	1	0	1	0	0	0
栄養士養成施設 (学校種別不明)	1	1	1	0	0	0	0	0
栄養士養成施設 全体*1	80 (69.6)	69 (60.0)	57 (49.6)	4 (3.5)	46 (40.0)	46 (40.0)	1 (0.9)	0 (0.0)

*1 施設数（%），回答実習数（n=115，欠損値（n=1）を含む）に対する割合で示した。

・単位数（複数回答）

単位：施設数

	1 単位				2 単位				3 単位*2		4 単位*2	
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計	必修	小計	必修	小計
栄養士養成施設 (短大)	37	18	10	68*3	12	3	5	21*4	2	2	1	1
栄養士養成施設 (専攻科)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
栄養士養成施設 (大学)	5	5	3	13	2	0	0	2	0	0	0	0
栄養士養成施設 (専門)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設 (学校種別不明)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設 全体*1	44 (38.3)	23 (20.0)	13 (11.3)	83*3 (72.2)	14 (12.2)	4 (3.5)	5 (4.3)	24*4 (20.9)	2 (1.7)	2 (1.7)	1 (0.9)	1 (0.9)

*1 施設数（%），回答実習数（n=115（単位数または必修・選択の種別への回答欠損値（n=5）を含む）に対する割合で示した。

*2 3 単位および 4 単位は必修のみの回答であった。

*3 必修・選択の種別への回答の欠損値（n=3）を含む。

*4 必修・選択の種別への回答の欠損値（n=1）を含む

・履修学年（複数回答）

単位：施設数

	1 年	2 年	3 年	4 年
栄養士養成施設（短大）	2	94	—	—
栄養士養成施設（専攻科）	1	1	—	—
栄養士養成施設（大学）	0	0	13	5
栄養士養成施設（専門）	0	1	—	—
栄養士養成施設（学校種別不明）	0	1	0	0
栄養士養成施設全体 ^{*1}	3 (2.6)	97 (84.3)	13 (11.3)	5 (4.3)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=115，欠損値（n=2）を含む）に対する割合で示した。

栄養士養成施設の校外実習は、「給食の運営」として実施することが求められており，全施設で給食関連の校外実習を実施していた。主な実習先として多い者から順に，病院等医療施設（69.6%），介護老人福祉施設（60.0%），児童福祉施設（49.6%）であった。単位数は，1 単位で実施する実習が多かったが（72.2%），4 単位の実習を行う施設も 1 か所みられた。履修学年は，短大（2 年制養成施設）では 2 年生，大学（4 年制養成施設）では 3 年生が最も多かった。

② 臨床関係（科目名：臨床栄養学実習／病院実習）

・主な実習先（複数回答）

単位：施設数

	A 病院等医療 施設 (老健含 む)	B 介護老人 福祉施設	C 児童福祉 施設	D その他の 社会福祉 施設	E 事業所	F 学校	G 保健所・ 保健セン ター	H その他
栄養士養成施設（短大）	5	0	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設（短大・専攻科）	1	0	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設全体 ^{*1,2}	6 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=6）に対する割合で示した。

^{*2} 大学，専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

・単位数（複数回答）

単位：施設数

	1 単位				2 単位			
	必修	選択	選択必修	小計	必修	選択	選択必修	小計
栄養士養成施設（短大）	2	2	0	5 ^{*3}	0	0	0	0
栄養士養成施設（専攻科）	0	0	0	0	0	1	0	1
栄養士養成施設全体 ^{*1,2}	2 (33.3)	2 (33.3)	0 (0.0)	5 (83.3) ^{*3}	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=6）に対する割合で示した。

^{*2} 大学，専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

^{*3} 必修・選択の種別への回答の欠損値（n=1）を含む。

・履修学年（複数回答）

単位：施設数

	1 年	2 年
栄養士養成施設（短大）	0	5
栄養士養成施設（専攻科）	1	1
栄養士養成施設全体 ^{*1,2}	1 (16.7)	6 (100.0)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=6）に対する割合で示した。

^{*2} 大学，専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

栄養士養成では、「給食の運営」の校外実習が必修である。この「給食の運営」に加えて必修ではない「臨床関連」の実習を実施している養成施設が6施設あった。実習先は病院等医療施設のみであった。臨床関連の校外実習の合計単位数は1～2単位であり，約8割が1単位であった。臨床関連の校外実習の履修学年は，給食関連と同様に短大では2年生で実施していた。専攻科では，1施設のみの回答ではあるが，1年生から実施していた。

③その他（科目名：栄養指導/老人ホーム/公衆栄養学など）

・主な実習先（複数回答）

単位：施設数

	A 病院等医療 施設 (老健含 む)	B 介護老人 福祉施設	C 児童福祉 施設	D その他の 社会福祉 施設	E 事業所	F 学校	G 保健所・ 保健セン ター	H その他
栄養士養成施設 (短大)	2	3	1	0	1	0	0	1
栄養士養成施設 (短大・専攻 科)	0	0	0	0	0	0	1	0
栄養士養成施設 (大学)	1	0	1	0	1	0	0	0
栄養士養成施設 全体 ^{*1,2}	3 (50.0)	3 (50.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	2 (33.3)	0 (0.0)	1 (16.7)	1 (16.7)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=6，欠損値（n=1）を含む）に対する割合で示した。

^{*2} 専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

・単位数（複数回答）

単位：施設数

	1 単位				2 単位				3 単位 ^{*3}	
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計	必修	小計
栄養士養成施設 (短大)	0	1	2	3	0	0	0	0	1	1
栄養士養成施設 (専攻科)	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0
栄養士養成施設 (大学)	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設 全体 ^{*1,2}	1 (16.7)	1 (16.7)	2 (33.3)	4 (66.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	0 (0.0)	1 (16.7)	1 (16.7)	1 (16.7)

^{*1} 施設数（%），回答実習数（n=6）に対する割合で示した。

^{*2} 専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

^{*3} 3単位は必修のみの回答であった。

・履修学年（複数回答）

単位：施設数

	1 年	2 年	3 年	4 年
栄養士養成施設（短大）	0	4	0	0
栄養士養成施設（専攻科）	0	1	0	0
栄養士養成施設（大学）	0	0	0	1
栄養士養成施設全体*1,2	0 (0.0)	5 (83.3)	0 (0.0)	1 (16.7)

*1 施設数（%），回答実習数（n=6）に対する割合で示した。

*2 専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

その他の校外実習（栄養指導や公衆栄養学の内容の実習）を実施している養成施設は，6 施設であった。単位数は，約 7 割が 1 単位であった。履修学年は，短大・専攻科では 2 年生，大学では 4 年生であった。

4-2 校外実習の合計単位数（複数回答あり）

単位：施設数

	1 単位				2 単位				3 単位			
	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計	必修	選択	選択 必修	小計
栄養士養成施設（短大）	36	22	13	71	16	7	3	26	2	1	0	3
栄養士養成施設（専攻科）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設（大学）	6	5	0	11	2	0	1	3	0	0	0	0
栄養士養成施設（専門）	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設（学校種別不明）	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設全体*1	44 (44.4)	27 (27.3)	13 (13.1)	84 (84.8)	18 (18.2)	7 (7.1)	4 (4.0)	29 (29.3)	2 (2.0)	1 (1.0)	0 (0.0)	3 (3.0)

*1 施設数（%），回答実習数（n=99）に対する割合で示した。

栄養士免許取得に必要な校外実習の単位数は 1 単位である。校外実習の合計単位数を 1 単位必修としているところが 44 施設で最も多かった。2 単位必修は 18 施設，3 単位必修は 2 施設であった。表には示していないが，その他，4 単位選択必修が 1 施設（短大），5 単位選択が 1 施設（専攻科）との回答もあった。

4-3 優先的に校外実習を行える施設（あり：49 施設，なし：50 施設）

単位：施設数

	1	2	3	4	5	6
	附属病院	附属福祉施設	附属小中学校・高等学校	学内の食堂	学外の提携施設*3	なし
栄養士養成施設（短大）	1	12	2	2	10	50
栄養士養成施設（大学）	0	0	2	2	4	8
栄養士養成施設全体*1,2	1 (1.0)	12 (12.1)	4 (4.0)	4 (4.0)	14 (14.1)	61 (61.6)

*1 施設数（%），回答数（n=99）に対する割合で示した。

*2 専攻科，専門学校，学校種別不明の回答はいずれも「なし」が 1 施設であったため表に示していないが，栄養士養成施設全体の数には含む。

*3 学外の提携施設の記載内容（施設数）

指定管理運営施設（1），包括協定施設（1），付属認定こども園・幼稚園（4），連携病院・老健（2），連携老人福祉施設（1），連携事業所（3），連携保育園・こども園（2）

優先的に校外実習を行える施設として，学内や附属の施設（病院，福祉施設，小中学校・高等学校）が 21 か所あった。学外の提携施設は 14 か所であった。一方，優先的な実習施設を持たない養成施設との割合は半々であった。

5-1 教育カリキュラム（通常授業として実施している教育内容・複数回答）

①栄養士養成施設（短大）

	教育内容	している	していない	欠損	実施している場合 （施設数のみ）			
		施設数（%）			必修	選択	選択必修	欠損
1	栄養士としての専門意識を醸成するための教育	68 (81.9)	14 (16.9)	1 (1.2)	42	14	8	6
2	栄養士としての職業倫理教育	66 (79.5)	17 (20.5)	0 (0.0)	37	19	7	5
3	他職種との連携のための教育	15 (18.1)	68 (81.9)	0 (0.0)	10	3	1	2
4	情報のエビデンスを判断するための教育	33 (39.8)	50 (60.2)	0 (0.0)	23	4	7	2
5	その他（インターンシップ・現場体験等）	11	－	－	4	6	0	1
5	その他（現場栄養士からの指導等）	3	－	－	1	1	0	1
5	その他（ボランティア等）	1	－	－	0	1	0	0
5	その他（栄養士の総合的な学習）	1	－	－	0	1	0	0
5	その他（実験技術等）	1	－	－	1	0	0	0

②栄養士養成施設（専攻科）

	教育内容	している	していない	欠損	実施している場合 （施設数のみ）			
		施設数（%）			必修	選択	選択必修	欠損
1	栄養士としての専門意識を醸成するための教育	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	－	－	－	－
2	栄養士としての職業倫理教育	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	－	－	－	－
3	他職種との連携のための教育	1 (100.0)	0 (50.0)	0 (0.0)	0	1	0	0
4	情報のエビデンスを判断するための教育	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0	1	0	0

③栄養士養成施設（大学）

	教育内容	している	していない	欠損	実施している場合 (施設数のみ)			
		施設数 (%)			必修	選択	選択 必修	欠損
1	栄養士としての専門意識を醸成するための教育	11 (84.6)	2 (15.4)	0 (0.0)	9	3	1	0
2	栄養士としての職業倫理教育	10 (76.9)	3 (23.1)	0 (0.0)	5	3	1	1
3	他職種との連携のための教育	2 (15.4)	11 (84.6)	0 (0.0)	2	0	0	0
4	情報のエビデンスを判断するための教育	9 (69.2)	4 (30.8)	0 (0.0)	1	5	2	1
5	その他（インターンシップ・現場体験等）	2	－	－	0	2	0	0
5	その他（食育の実践等）	2	－	－	1	1	0	0
5	その他（地域スポーツと栄養）	1	－	－	0	1	0	0

④栄養士養成施設（専門学校）

	教育内容	している	していない	欠損	実施している場合 (施設数のみ)			
		施設数 (%)			必修	選択	選択 必修	欠損
1	栄養士としての専門意識を醸成するための教育	1 (100.0)	－	－	1	0	0	0
2	栄養士としての職業倫理教育	1 (100.0)	－	－	1	0	0	0
3	他職種との連携のための教育	1 (100.0)	－	－	0	0	1	0
4	情報のエビデンスを判断するための教育	1 (100.0)	－	－	0	1	0	0
5	その他（インターンシップ）	1	－	－	0	1	0	0

■シラバス分析：栄養士としての専門意識を醸成するための教育のシラバス例

科目名	栄養士への道 等	演習	開講期：2年 前期
到達目標	栄養士の役割と業務の応用的な知識の理解。 栄養士の社会的な役割を理解する。		
教育内容	① 栄養士の役割の理解	⑨ 栄養士業務実践のための演習 2	
	② 栄養士業務実践のための知識 1	⑩ 栄養に関する課題への取組（個々）	
	③ 栄養士業務実践のための知識 2	⑪ 栄養に関する課題への取組（家庭）	
	④ 栄養士の活動分野	⑫ 栄養に関する課題への取組（地域）	
	⑤ 栄養士に求められている接遇	⑬ 栄養に関する課題への取組（世界）	
	⑥ 栄養士に求められている文章作成	⑭ 食育の実践（小児）	
	⑦ 栄養士に求められる表現力	⑮ 食育の実践（高齢者）	
	⑧ 栄養士業務実践のための演習 1		

■シラバス分析：栄養士としての職業倫理教育のシラバス例

科目名	アカデミック・スキルズ	演習&講義	開講期：1年 前期
到達目標	ヒトの健康における栄養学の意義、栄養士の役割を理解し学びへの動機を高める		
教育内容	① オリエンテーション	⑨ 栄養士の活動(保健所, 病院, 企業等)	
	② 推薦図書紹介, 履修相談	⑩ 現代医学と生活習慣病, 方向と現状	
	③ 食べ物・食生活・健康を考える	⑪ 健康の維持・増進と病気の予防・治療	
	④ 栄養学の歴史	⑫ 職業倫理 1	
	⑤ 食生活・栄養と健康の変化と課題	⑬ 職業倫理 2	
	⑥ 地球レベルでの栄養の課題と取り組み	⑭ 推薦図書の紹介	
	⑦ 栄養士・管理栄養士の歴史, 役割と業務	⑮ まとめ	
	⑧ 栄養士の使命・役割, 関連職種との関わり		

■シラバス分析：他職種との連携のための教育のシラバス例

科目名	実践臨床栄養学	講義	開講期：2年 前期
到達目標	管理栄養士・栄養士が関わっているチーム医療活動を知る。栄養士としての患者の栄養管理を実施する上で、栄養評価法を身につけ、それぞれの疾病の栄養療法を身につける		
教育内容	① 病院給食の概要 心構え	⑨ 脂質コントロール食	
	② 病院における栄養部門の組織と業務	⑩ 胃腸疾患食・術前術後食	
	③ 入院児食事療養制度と栄養管理実施基準	⑪ 食物アレルギー食・その他の特別食	
	④ 栄養アセスメントと栄養診断	⑫ 静脈栄養・経腸栄養	
	⑤ 病院食の種類と約束食事基準	⑬ 高齢者の栄養管理と嚥下食	
	⑥ エネルギーコントロール食 1	⑭ 小児栄養	
	⑦ エネルギーコントロール食 2	⑮ チーム医療での管理栄養士・栄養士の役割	
	⑧ たんぱく質コントロール食		

■シラバス分析：情報のエビデンスを判断するための教育のシラバス例

科目名	栄養情報実習 等	実習	開講期：2年 前期
到達目標	栄養情報の収集やデータの解釈のために重要な基礎的な統計手法について理解を深める。栄養士業務に役立つデータの管理や処理に関する技術を向上させる。		
教育内容	① オリエンテーション	⑨ データのまとめ方	
	② ソフトを使用した栄養価計算	⑩ 仮説検定の考え方	
	③ インターネットを使った情報収集	⑪ 集計表の検定	
	④ 統計の基礎	⑫ t 検定	
	⑤ 基礎統計量 代表値と散布度	⑬ プレゼンテーションの基本と企画立案	
	⑥ データの分布と正規分布	⑭ プレゼンテーション資料の作成 1	
	⑦ 相関と回帰	⑮ プレゼンテーション資料の作成 2	
	⑧ アンケートのまとめ方	⑯ プレゼンテーション実習・まとめ	

短大では、専門意識の醸成教育、職業倫理教育は約 8 割の養成施設で実施されていた。一方、情報のエビデンスを判断するための教育は 4 割、他職種との連携のための教育は約 2 割と低い割合であった。栄養士養成施設（専攻科）では、1 施設のみの回答であるが、他職種との連携のための教育、情報のエビデンスを判断するための教育が実施されていた。4 年制大学では、専門意識の醸成教育は約 8 割、職業倫理教育は約 7 割、情報のエビデンスを判断するための教育は約 6 割の養成施設で実施されていた。一方、他職種との連携のための教育は約 15%と低い割合であった。専門学校では、1 施設のみの回答ではあるが、1～4 の全ての教育およびインターンシップが実施されていた。また、表に示していないが、学校種別不明 1 施設では、1～4 の全ての教育で「実施なし」との回答であった。

5-2 通常の授業以外に、講演会等の方法で行っているもの（自由記述・複数回答） 単位：施設数

	各種講話・講演・セミナー*1	イベント・ボランティア参加*2	現場見学等*3	現場体験等*4	研究会活動等*5
栄養士養成施設（短大）	42	6	8	6	0
栄養士養成施設（専攻科）	1	0	0	0	0
栄養士養成施設（大学）	10	0	1	0	1
栄養士養成施設（専門）	0	0	0	0	0
栄養士養成施設（学校種別不明）	0	0	0	0	0
栄養士養成施設全体	54	6	9	6	1

*1 各種講話等の具体的な内容：現場栄養士・調理師・先輩の講話（35）、特別講座（6）、職業倫理講話（3）、

栄養士会等研修参加（3）、食育セミナー・健康セミナー講演（3）、地産地消講演

*2 イベント・ボランティア参加の具体的な内容：地域住民対象調理実習・食育イベントボランティア（3）、田植え等農業体験（2）等

*3 現場見学等の具体的な内容：給食施設等見学（6）、工場・食品企業等見学（4）

*4 現場体験等の具体的な内容：栄養士業務体験（6）

*5 研究会活動等の具体的な内容：プロスポーツ選手への食事調査等（1）

約半数の養成施設で、上の内容の教育が行われていた。講話形式での実施が最も多いが、多様な体験型の教育を実施している養成施設もみられた。

6. 栄養士資格以外に取得可能な資格（平成 29 年度現在・複数回答）

単位：施設数（％）

	1 栄養教諭二種 免許	2*1 教員免許	3 食品衛生管理 者	4 食品衛生監視 員	5 健康運動指導 士	6 健康運動実践 指導者	7 フードスペ シャリスト	8 フードコー ディネーター	9 NR・サブ リメントアド バイザー	10 フードサイ ンティスト	10 介護職員 初任者研 修	10 社会福祉 主事任用 資格	10 健康管理 士一般指 導員	10 臨床検 査技師
栄養士養成施設（短大）	48 (57.8)	7 (8.4)	2 (2.4)	2 (2.4)	0 (0.0)	3 (3.6)	46 (55.4)	12 (14.5)	3 (3.6)	7 (8.4)	5 (6.0)	5 (6.0)	4 (4.8)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専攻科）	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (50.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（大学）	13 (92.9)	10 (71.4)	5 (35.7)	5 (35.7)	2 (14.3)	4 (28.6)	11 (78.6)	2 (14.3)	4 (28.6)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (7.1)	0 (0.0)	1 (7.1)
栄養士養成施設（専門）	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設全体*2	63 (62.4)	17 (16.8)	7 (6.9)	7 (6.9)	2 (2.0)	7 (6.9)	58 (57.4)	15 (14.9)	7 (6.9)	7 (6.9)	5 (5.0)	6 (5.9)	4 (4.0)	1 (1.0)

*1 教員免許の科目：家庭科（短大 7、大学 6）、保健体育（3）、小学校 1 種（1）、保健科（1）社会科（1）、公民（1）

*2 学校種別不明の回答はなかったため示していない。

栄養士以外に取得可能な資格では、栄養教諭二種免許（63 施設）、フードスペシャリスト（58 施設）の 2 つの資格が過半数の養成施設で取得可能であった。次いで、教員免許（17 施設）、フードコーディネーター（15 施設）であった。4 年制大学でのみ取得可能な資格には、健康運動指導士、臨床検査技師が挙げられた。上表以外にもエアロビクスインストラクターや保育士等、多様な資格取得が可能であった。

7. 卒業研究の卒業要件における位置づけ（複数回答）

単位：施設数（％）

	1 必修*1	2 選択*2	3 選択必修*3	4 卒業要件に 含めない*4	5 その他*5	6 欠損
栄養士養成施設（短大）	29 (34.9)	13 (15.7)	5 (6.0)	17 (20.5)	14 (16.9)	11 (13.3)
栄養士養成施設（専攻科）	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（大学）	10 (76.9)	3 (23.1)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（専門）	0 (0.0)	1 (100.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)
栄養士養成施設（学校種別不明）	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	0 (0.0)	1 (100.0)
栄養士養成施設全体	41 (41.0)	17 (17.0)	5 (5.0)	17 (17.0)	14 (14.0)	12 (12.0)

*1 必修の場合の単位数

単位：施設数

	単位数									
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
栄養士養成施設（短大）	4	23	1	1	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設（専攻科）	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
栄養士養成施設（大学）	0	0	0	2	0	5	0	3	0	0
栄養士養成施設全体*	4	23	2	4	0	5	0	3	0	0

* 専門学校、学校種別不明の回答はなかったため示していない。

*2 選択の場合、例年、約何名の学生が履修しているか。

単位：人

	回答施設数	平均値	標準偏差	最小－最大
栄養士養成施設（短大）	13	37.6	27.4	1-80
栄養士養成施設（大学）	3	47.7	49.0	3-100
栄養士養成施設（専門学校）	1	30	－	－
栄養士養成施設全体*	17	38.9	29.7	1-100

* 専攻科，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

*3 選択必修の場合、例年、約何名の学生が履修しているか。

単位：人

	回答施設数	平均値	標準偏差	最小－最大
栄養士養成施設（短大）	5	45.0	24.7	15-75
栄養士養成施設全体*	5	45.0	24.7	15-75

* 専攻科，大学，専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

*4 卒業要件に含めない場合、卒業研究に代わる科目や課題を課しているか。 単位：施設数（％）

	回答施設数	課している ^a	課していない	欠損
栄養士養成施設（短大）	17	3 (17.6)	13 (76.5)	1 (5.9)
栄養士養成施設全体*	17	3 (17.6)	13 (76.5)	1 (5.9)

* 専攻科，大学，専門学校，学校種別不明の回答はなかったため示していない。

^a 課している内容（施設数）：卒業記念行事の開催（1），実習報告会の実施（1），ゼミナール研究（1）

*5 その他の内容（施設数）

卒業研究を実施していない（11），卒業研究の導入を検討したい（1），
ゼミを実施している（2）

卒業研究に関しては、短大では3割強の施設が必修（2単位が主）としている一方で、約2割が卒業要件に含めておらず、約1割が卒業研究に代わる課題を課していなかった。4年制大学では、必修としている施設が約8割（3～8単位）と高く、残りの2割は選択であった。選択での受講人員は3～100名であり、施設間の差が大きかった。

8. 教員が行っている「現場と連携した栄養改善に関わる実践的研究」（複数回答）

①公衆栄養分野、②臨床栄養学分野、③給食経営管理論・給食管理分野の教員

	①公衆栄養学分野		②臨床栄養学分野		③給食経営管理論・給食管理分野	
	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学
件数（施設数）	8	6	16	5	24	14
うち学生と一緒に いる件数（施設数）	7	2	14	4	13	12

		①公衆栄養学分野				②臨床栄養学分野				③給食経営管理論・給食管理分野			
		短期大学		4年制大学		短期大学		4年制大学		短期大学		4年制大学	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
連携先	地域（自治体）	4	50.0	1	16.7	3	18.8	0	0.0	4	16.7	6	42.9
	病院等（医療施設）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0
	介護施設等（社会福祉施設）	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	3	12.5	0	0.0
	保育所（児童福祉施設）・幼稚園	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	1	4.2	2	14.3
	学校（小・中・高・大）	1	12.5	2	33.3	2	12.5	0	0.0	3	12.5	0	0.0
	企業・会社	0	0.0	1	16.7	2	12.5	2	40.0	5	20.8	0	0.0
	飲食店	1	12.5	0	0.0	1	6.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	職能団体（栄養士会・医師会等）	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	0	0.0	1	7.1
	その他の団体・組合（JA, NPO, 社協等）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	0	0.0	1	7.1
	スポーツ施設・スポーツチーム	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.2	0	0.0
	その他	1	12.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	1	12.5	2	33.3	5	31.3	1	20.0	7	29.2	4	28.6
	合計	8	100.0	6	100.0	16	100.0	5	100.0	24	100.0	14	100.0
対象者	妊産婦	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	乳幼児 ^{*1}	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	2	8.3	4	28.6
	児童・生徒 ^{*1}	1	12.5	1	16.7	1	6.3	0	0.0	2	8.3	1	7.1
	学生（短大・大学・専門学校生） ^{*1}	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般成人	2	25.0	1	16.7	4	25.0	0	0.0	9	37.5	4	28.6
	高齢者	0	0.0	0	0.0	4	25.0	0	0.0	4	16.7	0	0.0
	スポーツ選手（スポーツしている人）	0	0.0	1	16.7	2	12.5	2	40.0	2	8.3	0	0.0
	傷病者	0	0.0	0	0.0	2	12.5	2	40.0	0	0.0	0	0.0
	障がい者	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	5	62.5	3	50.0	2	12.5	1	20.0	5	20.8	5	35.7
	合計	8	100.0	6	100.0	16	100.0	5	100.0	24	100.0	14	100.0
研究内容	栄養・食事調査（介入なし）	3	37.5	4	66.7	0	0.0	3	60.0	4	16.7	3	21.4
	栄養・食事・その他の介入調査	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	0	0.0	1	7.1
	食品・商品開発・地元食材の活用等	0	0.0	0	0.0	1	6.3	1	20.0	4	16.7	1	7.1
	メニューや弁当開発	1	12.5	1	16.7	5	31.3	0	0.0	7	29.2	4	28.6
	災害食開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	14.3
	栄養教育教材・プログラム開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養サポート実践	0	0.0	0	0.0	1	6.3	0	0.0	2	8.3	0	0.0
	食育活動・食育事業実践 ^{*2}	1	12.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.2	2	14.3
	食育以外の栄養改善事業実践 ^{*2}	3	37.5	0	0.0	6	37.5	0	0.0	1	4.2	1	7.1
	その他	0	0.0	1	16.7	2	12.5	1	20.0	5	20.8	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	8	100.0	6	100.0	16	100.0	5	100.0	24	100.0	14	100.0

*1 疾患をもっていない対象者

*2 イベント・教室開催等への協力も含む

*3 専攻科、専門学校、学校種別不明の回答は少数（n=3以下）または回答なしであったため示していない。

④応用栄養学分野、⑤栄養教育論分野、⑥栄養指導論分野の教員

	④応用栄養学分野		⑤栄養教育論分野		⑥栄養指導論分野	
	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学
件数（施設数）	11	5	9	5	26	6
うち学生と一緒に 行っている件数（施設数）	6	4	7	2	20	6

		④応用栄養学分野				⑤栄養教育論分野				⑥栄養指導論分野			
		短期大学		4年制大学		短期大学		4年制大学		短期大学		4年制大学	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
連携先	地域（自治体）	3	27.3	2	40.0	1	11.1	3	60.0	4	15.4	0	0.0
	病院等（医療施設）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	11.5	0	0.0
	介護施設等（社会福祉施設）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.8	0	0.0
	保育所（児童福祉施設）・幼稚園	0	0.0	0	0.0	3	33.3	1	20.0	1	3.8	0	0.0
	学校（小・中・高・大）	5	45.5	1	20.0	1	11.1	0	0.0	6	23.1	0	0.0
	企業・会社	1	9.1	0	0.0	0	0.0	1	20.0	1	3.8	1	16.7
	飲食店	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	職能団体（栄養士会・医師会等）	0	0.0	0	0.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他の団体・組合（JA, NPO, 社協等）	0	0.0	0	0.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	スポーツ施設・スポーツチーム	2	18.2	1	20.0	1	11.1	0	0.0	1	3.8	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	2	7.7	0	0.0
	不明	0	0.0	1	20.0	1	11.1	0	0.0	7	26.9	5	83.3
	合計	11	100.0	5	100.0	9	100.0	5	100.0	26	100.0	6	100.0
対象者	妊産婦	0	0.0	1	20.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	乳幼児 ^{*1}	0	0.0	0	0.0	3	33.3	1	20.0	1	3.8	2	33.3
	児童・生徒 ^{*1}	0	0.0	0	0.0	1	11.1	0	0.0	3	11.5	0	0.0
	学生（短大・大学・専門学校生） ^{*1}	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般成人	3	27.3	1	20.0	2	22.2	3	60.0	5	19.2	4	66.7
	高齢者	0	0.0	1	20.0	1	11.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	スポーツ選手（スポーツしている人）	7	63.6	2	40.0	1	11.1	0	0.0	3	11.5	0	0.0
	傷病者	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	4	15.4	0	0.0
	障がい者	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	5	19.2	0	0.0
	不明	1	9.1	0	0.0	1	11.1	1	20.0	5	19.2	0	0.0
	合計	11	100.0	5	100.0	9	100.0	5	100.0	26	100.0	6	100.0
研究内容	栄養・食事調査（介入なし）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養・食事・その他の介入調査	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	1	3.8	0	0.0
	食品・商品開発・地元食材の活用等	1	9.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	3.8	2	33.3
	メニューや弁当開発	2	18.2	0	0.0	1	11.1	0	0.0	1	3.8	1	16.7
	災害食開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7
	栄養教育教材・プログラム開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	20.0	1	3.8	0	0.0
	栄養サポート実践	6	54.5	2	40.0	1	11.1	0	0.0	4	15.4	0	0.0
	食育活動・食育事業実践 ^{*2}	1	9.1	1	20.0	4	44.4	1	20.0	5	19.2	2	33.3
	食育以外の栄養改善事業実践 ^{*2}	0	0.0	2	40.0	3	33.3	1	20.0	10	38.5	0	0.0
	その他	1	9.1	0	0.0	0	0.0	1	20.0	3	11.5	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	11	100.0	5	100.0	9	100.0	5	100.0	26	100.0	6	100.0

^{*1} 疾患をもっていない対象者

^{*2} イベント・教室開催等への協力も含む

^{*3} 専攻科、専門学校、学校種別不明の回答は少数（n=1）または回答なしであったため示していない。

⑦栄養学分野、⑧調理学分野、⑨食品学・食品加工学・食品衛生学分野の教員

	⑦栄養学分野		⑧調理学分野		⑨食品学・食品加工学・食品衛生学分野	
	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学
件数（施設数）	6	3	22	2	8	6
うち学生と一緒に いる件数（施設数）	5	3	15	2	6	6

		⑦栄養学分野				⑧調理学分野				⑨食品学・食品加工学・食品衛生学分野			
		短期大学		4年制大学		短期大学		4年制大学		短期大学		4年制大学	
		n	%	n	%	n	%	n	%	n	%	n	%
連携先	地域（自治体）	0	0.0	0	0.0	7	31.8	2	100.0	0	0.0	1	16.7
	病院等（医療施設）	0	0.0	0	0.0	2	9.1	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	介護施設等（社会福祉施設）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	保育所（児童福祉施設）・幼稚園	1	16.7	0	0.0	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	学校（小・中・高・大）	1	16.7	0	0.0	2	9.1	0	0.0	1	12.5	2	33.3
	企業・会社	1	16.7	0	0.0	1	4.5	0	0.0	2	25.0	1	16.7
	飲食店	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	職能団体（栄養士会・医師会等）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他の団体・組合（JA, NPO, 社協等）	0	0.0	0	0.0	4	18.2	0	0.0	1	12.5	0	0.0
	スポーツ施設・スポーツチーム	1	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	1	16.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	1	16.7	3	100.0	5	22.7	0	0.0	4	50.0	2	33.3
	合計	6	100.0	3	100.0	22	100.0	2	100.0	8	100.0	6	100.0
対象者	妊産婦	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	乳幼児 ^{*1}	1	16.7	0	0.0	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	児童・生徒 ^{*1}	0	0.0	0	0.0	2	9.1	0	0.0	0	0.0	2	33.3
	学生（短大・大学・専門学校生） ^{*1}	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般成人	2	33.3	1	33.3	12	54.5	2	100.0	4	50.0	2	33.3
	高齢者	0	0.0	1	33.3	2	9.1	0	0.0	1	12.5	1	16.7
	スポーツ選手（スポーツしている人）	2	33.3	1	33.3	0	0.0	0	0.0	1	12.5	1	16.7
	傷病者	0	0.0	0	0.0	1	4.5	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	障がい者	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	12.5	0	0.0
	不明	1	16.7	0	0.0	4	18.2	0	0.0	1	12.5	0	0.0
	合計	6	100.0	3	100.0	22	100.0	2	100.0	8	100.0	6	100.0
研究内容	栄養・食事調査（介入なし）	0	0.0	3	100.0	1	4.5	0	0.0	1	12.5	3	50.0
	栄養・食事・その他の介入調査	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	食品・商品開発・地元食材の活用等	1	16.7	0	0.0	1	4.5	0	0.0	6	75.0	3	50.0
	メニューや弁当開発	2	33.3	0	0.0	9	40.9	2	100.0	0	0.0	0	0.0
	災害食開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養教育教材・プログラム開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養サポート実践	2	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	12.5	0	0.0
	食育活動・食育事業実践 ^{*2}	1	16.7	0	0.0	3	13.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	食育以外の栄養改善事業実践 ^{*2}	0	0.0	0	0.0	3	13.6	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	5	22.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	6	100.0	3	100.0	22	100.0	2	100.0	8	100.0	6	100.0

*1 疾患をもっていない対象者

*2 イベント・教室開催等への協力も含む

*3 専攻科，専門学校，学校種別不明は回答なしであったため示していない。

⑩教職課程科目、⑪その他の科目の教員

	⑩教職課程科目		⑪その他	
	短期大学	4年制大学	短期大学	4年制大学
件数（施設数）	5	5	23	2
うち学生と一緒に いる件数（施設数）	4	5	21	2

該当教員の主担当科目		⑩教職課程科目				⑪その他			
		短期大学		4年制大学		短期大学		4年制大学	
		n	%	n	%	n	%	n	%
連携先	地域（自治体）	2	40.0	0	0.0	6	26.1	0	0.0
	病院等（医療施設）	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	介護施設等（社会福祉施設）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	保育所（児童福祉施設）・幼稚園	1	20.0	1	20.0	1	4.3	1	50.0
	学校（小・中・高・大）	2	40.0	3	60.0	3	13.0	1	50.0
	企業・会社	0	0.0	0	0.0	2	8.7	0	0.0
	飲食店	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	職能団体（栄養士会・医師会等）	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他の団体・組合（JA, NPO, 社協等）	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	スポーツ施設・スポーツチーム	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	不明	0	0.0	1	20.0	8	34.8	0	0.0
	合計	5	100.0	5	100.0	23	100.0	2	100.0
対象者	妊産婦	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	乳幼児 ^{*1}	1	20.0	2	40.0	1	4.3	1	50.0
	児童・生徒 ^{*1}	3	60.0	3	60.0	2	8.7	1	50.0
	学生（短大・大学・専門学校生） ^{*1}	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	一般成人	0	0.0	0	0.0	10	43.5	0	0.0
	高齢者	0	0.0	0	0.0	2	8.7	0	0.0
	スポーツ選手（スポーツしている人）	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	傷病者	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	障がい者	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	その他	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	不明	1	20.0	0	0.0	4	17.4	0	0.0
	合計	5	100.0	5	100.0	23	100.0	2	100.0
研究内容	栄養・食事調査（介入なし）	0	0.0	1	20.0	2	8.7	1	50.0
	栄養・食事・その他の介入調査	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	食品・商品開発・地元食材の活用等	0	0.0	0	0.0	4	17.4	0	0.0
	メニューや弁当開発	0	0.0	0	0.0	5	21.7	0	0.0
	災害食開発	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	栄養教育教材・プログラム開発	0	0.0	0	0.0	1	4.3	0	0.0
	栄養サポート実践	0	0.0	0	0.0	2	8.7	0	0.0
	食育活動・食育事業実践 ^{*2}	4	80.0	0	0.0	3	13.0	1	50.0
	食育以外の栄養改善事業実践 ^{*2}	0	0.0	4	80.0	4	17.4	0	0.0
	その他	1	20.0	0	0.0	2	8.7	0	0.0
	不明	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0
	合計	5	100.0	5	100.0	23	100.0	2	100.0

*1 疾患をもっていない対象者

*2 イベント・教室開催等への協力も含む

*3 専攻科、専門学校、学校種別不明の回答はなしであったため示していない。

複数科目名が記載されている場合は、最初の科目名で分類した。いずれの学校種別においても、地域や企業と結び付いた多くの実践的研究の事例が挙げられていた。なお、「該当教員の主担当科目」の回答を求めたにも関わらず、研究や社会活動を含む教育科目名が記載された回答が多く見られた（例：卒業研究）。そのため、教員が行う現場と連携した栄養改善に関わる実践的研究以外の、課外授業や大学の社会貢献活動・学生活動が回答の中に含まれた可能性がある。

公衆栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 14 件あり、連携先は地域（自治体）（35.7%）、対象者は一般成人（21.4%）、内容は栄養・食事調査（介入なし）（50.0%）が最も多かった。

臨床栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 21 件あり、連携先は企業・会社（19.0%）、対象者は傷病者・一般成人・高齢者・スポーツ選手（いずれも 19.0%）、内容は食育以外の栄養改善事業実践（イベント等への参加を含む）（28.6%）が最も多かった。

給食経営管理論分野の教員の実践的研究は延べ 41 件あり、連携先は地域（自治体）（26.8%）、対象者は一般成人（31.7%）、内容はメニューや弁当開発（26.8%）が最も多かった。

応用栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 17 件あり、連携先は学校（小・中・高・大）（35.3%）、対象者はスポーツ選手（スポーツをしている人）（52.9%）、内容は栄養サポート実践（47.1%）が最も多かった。

栄養教育論分野の教員の実践的研究は延べ 14 件あり、連携先は保育所（児童福祉施設）・幼稚園（28.6%）、対象者は一般成人（35.7%）と乳幼児（28.6%）、内容は食育活動・食育事業実践（35.7%）が最も多かった。

栄養指導論分野の教員の実践的研究は延べ 33 件あり、連携先は学校（小・中・高・大）（21.2%）、対象者は一般成人（27.3%）、内容は食育以外の栄養改善事業実践（イベント等への参加を含む）（30.3%）が最も多かった。

栄養学分野の教員の実践的研究は延べ 9 件あり、連携先は保育所（児童福祉施設）・幼稚園、学校（小・中・高・大）、企業・会社、スポーツ施設、その他がいずれも 1 件ずつであった。対象者は一般成人（33.3%）とスポーツ選手（33.3%）、内容はメニューや弁当開発（22.2%）、栄養サポート実践（22.2%）が最も多かった。

調理学分野の教員の実践的研究は延べ 24 件あり、連携先は地域（自治体）（37.5%）、対象者は一般成人（50.0%）、内容はメニューや弁当開発（45.8%）が最も多かった。

食品学（食品加工学・食品衛生学を含む）分野の教員の実践的研究は延べ 14 件あり、連携先は企業・会社（21.4%）、対象者は一般成人（42.9%）、内容は食品・商品開発・地元食材の活用等（64.3%）が最も多かった。

教職課程科目の教員の実践的研究は延べ 10 件あり、連携先は学校（小・中・高・大）（50.0%）、対象者は児童・生徒（60.0%）、内容は食育活動・食育事業実践（40.0%）と食育以外の栄養改善事業実践（40.0%）が最も多かった。

その他の分野の教員の実践的研究は延べ 25 件あり、連携先は地域（自治体）（26.1%）、対象者は一般成人（100.0%）、内容はメニューや弁当開発（50.0%）が最も多かった。

栄養関連大学院結果(博士前期課程, 有効回答:65 校・65 専攻)

2つの回答(1専攻2コース)があった大学院については, 片方(栄養教諭の専攻:定員2名)を集計から除外し, 栄養関連大学院では, 65校, 65専攻の回答を解析に用いた。

1. 大学院(各校)の入学定員数

回答数	平均値 (人)	標準偏差 (人)	中央値 (人)	最小—最大 (人)
63	10.7	9.7	8.0	2—50

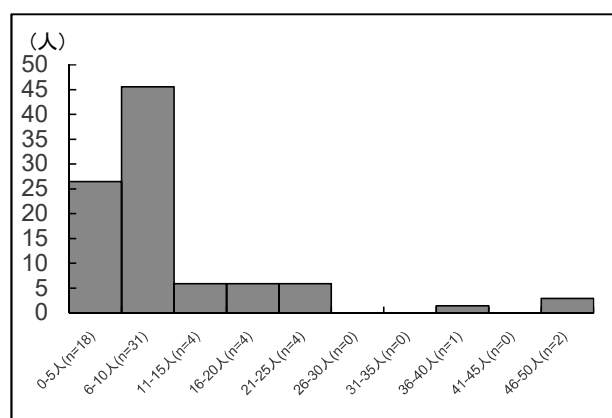


図3 栄養関連大学院(63専攻)の入学定員の分布

63校(欠損2校)が回答した。入学定員は2~50人の範囲にあり, 中央値8.0人, 平均10.7(s.d. 9.7)人であった。5人までが18校, 6~10人が30校で, この両者で約7割を占めた。

2. 専攻の概要

2-1 修了に必要な単位数

回答数	平均値 (単位)	標準偏差 (単位)	中央値 (単位)	最小—最大 (単位)
62	30.7	1.6	30.0	30—38

2-2 平成29年度在籍者数

	回答数 (校)	平均値 (人)	標準偏差 (人)	中央値 (人)	最小—最大 (人)
在籍者数	61	11.7	13.1	8.0	0—59
うち, 管理栄養士資格者数	61	7.2	9.4	4.0	0—53

修了に必要な単位数は, 62校(欠損3校)が回答した。修了に必要な単位数は30—38単位の範囲にあり, 平均30.7(s.d. 1.6)単位であった。平成29年度在籍者数は61校(欠損4校)が回答した。平成29年度平均在籍者数は0—59人(うち, 管理栄養士は0—53人)の範囲にあり, 平均11.7(s.d. 13.1)人(うち管理栄養士は7.2人)であった。最大人数が多いのは, 複数のコースを含む専攻となっているためであると推察される。

3. 修士(博士前期課程)課程担当教員(専任)の人数

	回答数 (校)	平均値 (人)	標準偏差 (人)	中央値 (人)	最小—最大 (人)
修士(博士前期)課程の担当教員数	65	15.8	11.7	12.0	5—72
うち, 実践栄養学分野の教員数	65	4.2	2.5	4.0	0—11

65校が回答した。修士(博士前期)課程の担当教員数は, 平均15.8(s.d. 11.7)人, うち, 実践栄養学分野の教員は平均4.2人(s.d. 2.5)と約1/4であった。

4. 博士後期課程の設置について

4-1 博士後期課程の有無

単位：施設数（％）

回答数	あり	なし	欠損
65	40 (61.5)	22 (33.8)	3 (4.6)

62 校（欠損 3 校）が回答した。そのうち、博士後期課程「有り」と回答したのは 40 校（61.5％）であった。博士後期課程専攻名（延べ 44 専攻）は、次のとおりである。なお、合計が 40 校になっていないのは、複数の博士後期課程専攻を設置するとの回答があったためである。

4-2 博士後期課程専攻名

「栄養」あり:14	「健康」あり:5	「医歯薬」「保健」「福祉」あり:10	生命科学・その他:15
食品栄養学専攻(2)	健康科学専攻(3)	医療福祉学専攻	応用化学・バイオサイエンス専攻
食品栄養科学専攻(2)	健康生活学	保健学専攻	応用生命科学専攻
食物栄養学専攻(4)	健康福祉学専攻	保健福祉科学専攻	生活文化学専攻
人間栄養学専攻		食品薬品総合科学研究科	人間生活学専攻(3)
人間栄養科学専攻		薬科学専攻	人間発達学専攻
人間環境科学専攻		総合リハビリテーション学専攻	応用生物学専攻
栄養科学専攻 (2)		薬食生命科学専攻	共生自然科学専攻
栄養管理学専攻		周手術医療安全学	人間環境科学専攻
		看護学	人間生活科学専攻
		感染制御学	人間生活学専攻
			生活科学専攻
			生活環境学専攻
			生活支援学専攻

専攻名の名称（複数回答）には次のようなものがあつた。「栄養」を含む名称が 15,「健康」を含む名称が 5,「医歯薬」「保健」「福祉」を含む名称が 10,「生命科学・その他」を含む名称が 15 であつた。

4-3 学位(博士号)の名称(複数回答)

「栄養」あり:15	「健康」あり:4	「医歯薬」「保健」「福祉」あり:9	学術・生活科学・その他:23
栄養学(7)	健康科学(2)	保健学(3)	学術(10)
食物栄養学(3)	健康科学専攻	保健福祉学	生活科学(3)
食品栄養学(2)	健康福祉学	薬科学	家政学
食品栄養科学(2)		周手術医療安全学	人間生活学
栄養科学		看護学	人間生活科学
		感染制御学	人間文化学
		社会福祉学	人間環境科学
			生活環境学
			生活支援学
			環境人間
			工学
			応用生物学

博士号の学位名称（複数回答）には次のようなものがあつた。「栄養」を含む名称が 15,「健康」を含む名称が 4,「医歯薬」「保健」「福祉」を含む名称が 9,「学術・生活科学・その他」を含む名称が 23（うち学術博士 10）であつた。

5. 修士（前期）課程の人材養成の目的

1) 養成する人材像（複数回答）

単位：施設数（％）

養成する人材像			具体的分野	
栄養関連大学院 博士前期課程 n=65	職業人養成	62 (95.4)	①臨床栄養	56 (86.2)
			②公衆栄養	49 (75.4)
			③給食経営管理	33 (50.1)
			④学校栄養	45 (69.2)
			⑤健康・スポーツ栄養	48 (73.8)
			⑥福祉栄養	31 (47.7)
			⑦食品開発	47 (72.3)
			⑧国際栄養	20 (30.8)
			⑨その他*1	8 (12.3)
	研究者養成	57 (87.7)	①基礎研究	51 (78.4)
			②応用研究	49 (75.4)
			③その他	1 (1.5)
	その他	3 (4.6)		

*1 職業人養成 具体的分野：その他の記載内容

衛生統計，食品安全・食品衛生監視員等，調剤薬局やドラッグストアでの栄養管理，学校保健・養護教諭コース，栄養サポート臨床検査技師コース，地域健康づくり支援コースの3領域あり，管理栄養士・栄養士養成施設

2) 高度専門職業人養成の今後の方針

単位：施設数（％）

今後，強化する予定	現状維持	現在は行っていないが， 今後取り組む予定	今後とも取り組む 予定はない	未定	欠損
23 (35.4)	35 (53.8)	2 (3.1)	0 (0.0)	5 (7.7)	0 (0.0)

65 校が回答した。うち，62 校（95.4%）が職業人養成を目指していた。具体的分野では，臨床栄養が 56 校（86.2%）と最も多く，公衆栄養 49 校（75.4%），健康・スポーツ栄養と食品開発が 48 校（73.8%）と続いた。研究者養成は，57 校（87.7%）が目指していた。また，今後，高度職業人養成を強化する予定がある大学院は約 3 割，現状維持は約 5 割であった。

II. 修士（博士前期）課程の教育について

1. 修士（博士前期）課程の教育内容

単位：施設数（％）

大学院生への教育内容	全く行っていない 必ず行っている 1 _____ 5					欠損	修士修了要件に必須
	1	2	3	4	5		
1) 研究室のゼミに参加させている	1	1	6	13	41	3	21 (32.3)
2) 修士論文の中間発表を行わせている	4	3	3	3	49	3	33 (50.8)
3) 学会発表をさせている	0	2	7	26	27	3	7 (10.8)
4) 学会誌に論文投稿させている	0	4	36	20	2	3	2 (3.1)
5) 地域と連携した研究を行わせている	4	7	33	16	2	3	1 (1.5)
6) 医療施設と連携した研究を行わせている	3	14	26	14	4	4	0 (0)
7) 企業と連携した研究を行わせている	7	15	30	7	3	3	1 (1.5)
8) インターンシップ等の学外実習に参加させている	20	14	15	11	1	4	2 (3.1)
9) 語学研修，海外研修などに参加させている	33	12	12	4	1	3	1 (1.5)
10) 資格の取得*1	13	2	7	6	6	31	1 (1.5)
11) その他*2	3	0	2	1	1	—	1 (1.5)

*1 栄養教諭専修免許，家庭科専修免許，お茶の水女子大学専門食育士，養護教諭専修免許状，中・高校教諭専修免

許状（保健）状，臨床栄養師，臨床栄養士，専修免許，健康運動指導士，臨床栄養士，教員専修免許，臨床栄養士，健康運動指導士

*2 その他

食育の実践活動への参加，専攻全体での共通ゼミ（論文抄読）を開講，専攻の複数教員が参加して指導に当る，ティーチングアシスタントとして学生指導の訓練をさせている

65 校（欠損含む）が回答した。必ず行われている研究内容で比率の高いものは，修士論文の中間発表（75.4%）で，修士修了要件に必須との回答も約 5 割と高率であった。次いで，研究室内のゼミへの参加（63.1%）であった。語学研修やインターンシップ等の学外実習を必ず行っているのは 1 校，学会誌への論文投稿や地域と連携した研究を行わせているところは 2 校と少なかった。

2. 大学院取得単位が，学術団体の認定単位となることを認めているか 単位：施設数（%）

回答数	認めている	認めていない	欠損
58	7 (10.8)	51 (78.5)	7 (10.8)

58 校（欠損 7 校）が回答した。大学院取得単位が，学術団体の認定単位と答えた大学院は 7 校（約 1 割）であった。認定単位として認めている学術団体には，日本病態栄養学会，日本健康・栄養システム学会があげられた。

3. 修士（博士前期）課程において，管理栄養士として求められる基本的な資質・能力を高めるための教育を行っているか。 単位：施設数（%）

		現在行っている	現在行っていない	今後取り組む予定	欠損
修士 （博士前期） 課程 n=65	1) 管理栄養士の使命感と役割	31 (47.7)	24 (36.9)	6 (9.2)	4 (6.2)
	2) 論理的な思考力	59 (90.8)	3 (4.6)	1 (1.5)	2 (3.1)
	3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	39 (60.0)	17 (26.2)	7 (10.8)	2 (3.1)
	4) 資料や文献の検索力と読解力	60 (92.3)	2 (3.1)	1 (1.5)	2 (3.1)
	5) 課題解決に向けた行動力	58 (89.2)	4 (6.2)	1 (1.5)	2 (3.1)
	6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	37 (56.9)	20 (30.8)	5 (7.7)	3 (4.6)
	7) リーダーシップ	35 (53.8)	14 (21.5)	13 (20.0)	3 (4.6)
	8) マネジメント能力	31 (47.7)	18 (27.7)	13 (20.0)	3 (4.6)
	9) 社会や組織を変えようとする力(アドボカシー)	19 (29.2)	34 (52.3)	10 (15.4)	2 (3.1)
	10) 協調性	44 (67.7)	15 (23.1)	3 (4.6)	3 (4.6)
	11) その他*1	3 (33.3)	4 (44.4)	2 (22.2)	0 (0)

65 校（欠損含む）が回答した。「資料や文献の検索力と読解力」「論理的な思考力」，「課題解決に向けた行動力」のための教育は，いずれも約 9 割の大学院が現在行っていた。一方，「協調性」は，約 7 割の施設で教育を行っていた。一方，「社会や組織を変えようとする力（アドボカシー）」は約 3 割でのみ教育が行われていた。

資質・能力を高める教育の卒業時における学生の修得割合

単位：施設数

		ほぼ 全員	7～8 割	約半数	2～3 割	0～1 割	わから ない	欠損
修士 (博士前 期) 課程 n=65	1) 管理栄養士の使命感と役割	19	14	4	1	2	16	9
	2) 論理的な思考力	26	25	7	0	0	4	3
	3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	17	17	10	2	0	14	5
	4) 資料や文献の検索力と読解力	38	15	5	1	0	3	3
	5) 課題解決に向けた行動力	20	22	14	0	0	4	5
	6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	13	15	14	1	0	15	7
	7) リーダーシップ	8	15	17	4	0	12	9
	8) マネジメント能力	8	11	19	4	0	14	9
	9) 社会や組織を変えようとする力 (アドボカシー)	5	6	13	5	2	24	10
	10) 協調性	15	28	6	0	0	8	8
	11) その他 ^{a1}	3	0	0	0	0	5	—

65 校（欠損含む）が回答した。「資料や文献の検索力と読解力（58.5%）」「論理的な思考力（40.0%）」が高く、「課題解決に向けた行動力」，「管理栄養士の使命感と役割」と続いた。

III. 修士（博士課程）修了後の進路

単位：施設数

		回答 施設数	平均 ^a	標準偏差 ^a	中央値 ^a	最小 ^a	最大 ^a	無回答 施設数
教育 機関	助教以上の教員	11	1.2 (28.4)	0.6 (17.7)	1.0 (25.0)	0 (4.8)	2 (75.0)	54
	助手	14	1.1 (23.9)	0.5 (12.5)	1.0 (25.0)	0 (3.0)	2 (50.0)	51
	研究員等	3	0.7 (60.0)	0.6 (56.6)	1.0 (60.0)	0 (20.0)	1 (100.0)	62
研究機関		6	1.0 (14.2)	0.0 (12.1)	1.0 (9.5)	1 (3.0)	1 (33.3)	59
企業	研究職	18	2.9 (37.2)	3.4 (20.4)	1.5 (35.4)	1 (3.0)	13 (68.4)	47
	研究職以外	18	4.1 (41.2)	3.8 (24.3)	2.5 (31.8)	1 (12.5)	14 (100.0)	47
	食育，調剤薬局，製造技術者（開発），出版社営業，総合職，食品技術者							
医療機関		24	2.0 (36.0)	1.6 (22.2)	1.0 (33.3)	1 (8.3)	7 (100.0)	41
福祉施設・介護施設		4	1.3 (18.9)	1.3 (12.8)	1.0 (14.3)	0 (9.1)	3 (33.3)	61
行政		14	1.4 (18.8)	1.2 (11.7)	1.0 (15.9)	0 (4.8)	5 (40.0)	51
学校	栄養教諭	8	1.1 (30.9)	0.8 (15.8)	1.0 (33.3)	0 (10.0)	3 (50.0)	57
	学校栄養士	5	0.8 (17.3)	0.4 (12.4)	1.0 (15.6)	0 (4.8)	1 (33.3)	60
給食マネジメント		1	0.0 (0.0)	—	—	—	—	64
博士後期課程に進学		19	1.7 (26.7)	1.5 (12.6)	1.0 (25.0)	0 (9.1)	7 (50.0)	46
その他		18	1.9 (47.7)	2.2 (31.6)	1.0 (41.7)	1 (4.8)	10 (100.0)	47
		高校教諭，養護教諭，中国に帰国，パート・アルバイト等，養護教諭・フリー，CRA，学校教員，進学1人，社会人院生3人，自営業，学校・子ども園の護教諭，保育士，アウトドアガイド，生協，研究生，臨床検査技師（医療機関）						
未定または不明		11	2.5 (28.4)	3.2 (29.2)	1.0 (16.7)	1 (3.0)	12 (100.0)	54

^a、各回答施設の修了生（合計）を分母として、人数とパーセンテージを算出した。

大学院修了後の進路では、企業との回答が 36 校（1～14 人の範囲），教育機関が 28 校（1～2 人の範囲）であった。博士後期課程へ進学との回答は 19 校（0～7 人の範囲）からあった。

付録2 管理栄養士養成施設 大学名・学部名・学科名の分析結果

	栄養を含む大学名	栄養を含む学部名	栄養を含む学科名	栄養を含むコース名
施設数	3	32	119	22
比率 (%)	2.2	23.4	86.9	16.1

(課程・専攻名は参考)

	大学名・学部名・学科名のいずれかに栄養を含む	いずれにも栄養を含まない
施設数	120	17
比率 (%)	87.6	12.4

栄養士養成施設 大学名・短期大学名・学部名・学科名の分析結果

	栄養を含む大学名	栄養を含む学部名	栄養を含む学科名	栄養を含むコース名
施設数	3	4	56	49
比率 (%)	2.6	23.5	49.1	86.0

件数／全件数×100

件数／大学数×100

件数／全件数×100

件数／コース設置学校数×100

大学の集計

(課程・専攻名は参考)

	大学名・学部名・学科名のいずれかに栄養を含む	いずれにも栄養を含まない
施設数	10	7
比率 (%)	58.8	41.2

件数／大学数×100

件数／大学数×100

短期大学の集計

	短期大学名・学科名のいずれかに栄養を含む	いずれにも栄養を含まない
施設数	47	50
比率 (%)	48.5	51.5

件数／短大数×100

件数／短大数×100

(参考)専攻/コース名を含めた分析(短大)

短期大学の集計

	短期大学名・学科名・専攻/コース名のいずれかに栄養を含む	いずれにも栄養を含まない
施設数	87	10
比率 (%)	89.7	10.3

件数／短大数×100

件数／短大数×100

栄養関連大学院の研究科名・専攻等の分析結果

	大学院レベル	研究科レベル (～学科1含む)	専攻レベル	コース名等レベル
分母※	85	84	73	17
「栄養」を含む数	2	13	40	11
割合 (%)	2.4	15.5	54.8	64.7

※分母の説明

研究科名がない大学院1であることから、85-1=84

85の大学院において、専攻が2つある大学院が1であることから、85+1=86、その内、専攻名がない大学院は13であることから、86-13=73

85の大学院の内、専攻が2つある大学院が1、コース名等が2つある大学院1、3つある大学院1ことから、85+1+1+2=89、その内、コース名等がないものは72であることから、89-72=17

	大学院名、研究科名、専攻等の名称のいずれかに栄養を含む	いずれにも栄養を含まない
分母	85	85
施設数	50	35
割合 (%)	58.8	41.2

栄養士養成施設の長
管理栄養士養成施設の長 殿
管理栄養士養成施設に
設置されている大学院の長

一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会 長 滝川 嘉彦
特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 理事長 武見ゆかり

平成29年度 厚生労働省委託
管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」
「管理栄養士・栄養士教育に関する基礎調査」へのご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、日本栄養改善学会が厚生労働省の委託を受け、全国栄養士養成施設協会の協力の下、管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」として、管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討を行うこととなりました。

栄養・食生活をめぐる様々な課題が深刻化・多様化している現在、管理栄養士・栄養士に求められる役割も高度化、複雑化しており、高い専門性と専門的実践能力を有する人材の養成が喫緊の課題となっています。そこで、本事業の一環として、管理栄養士・栄養士教育のあり方を検討することを目的として、現状の教育がどのように行われているかを調査・分析するワーキンググループ(WG)を設置し、「管理栄養士・栄養士教育に関する基礎調査」を、全国の管理栄養士・栄養士養成施設、ならびに同施設に設置されている大学院において行わせていただくことといたしました。

何卒ご理解とご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. 本調査より得られた結果は、栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの策定など、今後の管理栄養士・栄養士養成体制の基盤整備に寄与するものとなりますが、ご回答いただいた内容は、本調査の目的以外には使用せず、情報の管理を厳正に行います。
2. ご回答にあたっては、貴施設で、当該学科を総括する長、もしくは担当される専任教員が、ご回答くださるようお願いします。
3. 本事業の概要、および本調査に用いる質問紙は、本学会のホームページをご覧ください。

<http://jsnd.jp/information13.html>

以上

本調査の内容に関するお問い合わせ先:

特定非営利活動法人日本栄養改善学会 事務局 中森正代, 勝呂玲子
〒108-0073 東京都港区三田 3-4-18 二葉ビル 904 号
Tel 03-5446-9970 E-mail : kaizen_core@jsnd.jp

本調査は、現状分析 WG によって実施しています。

現状分析 WG 構成員 朝見祐也、奥村仙示、木村典代、永井成美、長幡友美

栄養士養成施設の学科長
管理栄養士養成施設の学科長 殿
管理栄養士養成施設に
設置されている大学院の学科長

一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会長 滝川 嘉彦
特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 理事長 武見ゆかり

平成29年度 厚生労働省委託
管理栄養士専門分野別人材育成事業 「教育養成領域での人材育成」
「管理栄養士・栄養士教育に関する基礎調査」へのご協力をお願い

謹啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

このたび、日本栄養改善学会が厚生労働省の委託を受け、全国栄養士養成施設協会の協力の下、管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」として、管理栄養士・栄養士養成のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討を行うこととなりました。

栄養・食生活をめぐる様々な課題が深刻化・多様化している現在、管理栄養士・栄養士に求められる役割も高度化、複雑化しており、高い専門性と専門的実践能力を有する人材の養成が喫緊の課題となっています。そこで、本事業の一環として、管理栄養士・栄養士教育のあり方を検討することを目的として、現状の教育がどのように行われているかを調査・分析するワーキンググループ(WG)を設置し、「管理栄養士・栄養士教育に関する基礎調査」を、全国の管理栄養士・栄養士養成施設、ならびに同施設に設置されている大学院において行わせていただくことといたしました。ご多用の折、誠に恐縮ですが、調査へのご協力をお願い申し上げます。

なお、本調査より得られた結果は、栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの策定など、今後の管理栄養士・栄養士養成の基盤整備に寄与するものとなりますが、ご回答いただいた内容は、本調査の目的以外には使用せず、情報の管理を厳正に行います。

何卒ご協力賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

1. ご回答者

貴施設の学科もしくは研究科を総括する長、もしくは担当される専任教員が、必要な統計データ等は事務担当とご相談の上、ご回答くださるようお願いいたします。

2. ご回答方法

別添の調査票にご回答を記入いただき、同封の返信用封筒にてご返送ください。

なお、調査票の電子ファイルが、本学会のホームページ(<http://jsnd.jp/information13.html>)よりダウンロードいただけます。回答は電子メールでも承ります。

3. ご回答締切り:平成 29 年8月 31 日(木)

以上

本調査の内容に関するお問い合わせ先:

特定非営利活動法人日本栄養改善学会 事務局 中森正代, 勝呂玲子
〒108-0073 東京都港区三田 3-4-18 二葉ビル 904 号
Tel 03-5446-9970 E-mail : kaizen_core@jsnd.jp

本調査は、現状分析 WG によって実施しています。

現状分析 WG 構成員 朝見祐也、奥村仙示、木村典代、永井成美、長幡友美

管理栄養士養成施設用

管理栄養士教育に関する基礎調査

平成29年度 管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」

本調査は、日本栄養改善学会が厚生労働省より委託され、全国栄養士養成施設協会の協力の下、実施している「管理栄養士・栄養士のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討」の一環として行う調査です。

栄養・食生活をめぐる様々な課題が深刻化・多様化している現在、管理栄養士・栄養士に求められる役割も高度化、複雑化しており、高い専門性と専門的実践能力を有する人材の養成が喫緊の課題となっています。そこで、管理栄養士・栄養士教育のあり方を検討することを目的として、現状の教育がどのように行われているかを調査したいと考えております。ご多用の折、誠に恐縮ですが、調査へのご協力をお願い申し上げます。

一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会長 滝川 嘉彦
 特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 理事長 武見ゆかり

[ご回答にあたって]

1. 貴施設の学科長または学科長職に相当する方が、必要な統計データ等は事務担当とご相談の上、ご回答くださるようお願いいたします。
2. 回答は、E-mailまたは郵送のいずれかでお願いします。
 (1) E-mailの場合・・・下記の問合わせ先のホームページよりダウンロードいただいた調査票にパソコンで入力し、下記の問合わせ先のE-mailアドレスあてに、件名を「コアカリ調査」として送信してください。ご提供いただけるシラバス等の資料はPDF等の電子ファイルで同送してください。なお、シラバス等の資料が紙媒体の場合は、お手数ですが、ご回答いただいた調査票も印刷して、返信用封筒にてお送りください。
 (2) 郵送の場合・・・本調査票に回答を手書きで記入し、ご提供いただけるシラバス等の資料とともに、返信用封筒にてお送りください。
3. 本調査は個人（教員、学生）の能力や施設別の実態を調べるものではありません。結果を公開する際は、集団のデータとして集計し、教員個人や個々の施設の情報が公表されることは決してありません。また、得られた情報は厳正に管理し、本調査目的以外には使用しません。
4. 本調査は任意の調査であり、回答しないことによって不利益を被ることはありません。一度回答を提出された後でも、報告書作成前で施設名の記載があれば、回答を撤回することができます。
5. 本調査のご回答をもって、調査への同意とみなします。
6. お答えいただいた内容について、後日、詳細な内容を問合せさせていただく場合があります。
7. 本調査へのご意見がございましたら、最終ページの自由記述欄にご記入ください。

回答期限：平成29年8月31日（木）必着

[問合せ先]

特定非営利活動法人日本栄養改善学会事務局 中森正代、勝呂玲子
 〒108-0073 東京都港区三田 3-4-18 二葉ビル 904 号
 Tel: 03-5446-9970 E-mail: kaizen_kyoiku@jsnd.jp
 URL: <http://jsnd.jp/information13.html> (調査票をダウンロードできます)

I. 管理栄養士養成課程の全体について

1. 管理栄養士養成課程の名称および学部・学科名をお答えください。

(記載は任意ですが、できるだけご協力をお願いします。個々の施設の情報が公表されることは決してありません)

--

2. 管理栄養士養成課程の学生数についておたずねします。

入学定員	人		
編入学生定員	人	合計人数	人

II. 管理栄養士養成課程の教育方針について

1. 貴施設では、次のどのような管理栄養士の養成をめざしていますか。また、その中で強化している具体的な分野は何ですか。あてはまるもの全てに○をつけてください。

養成する人材像		強化している具体的な分野	
↓ あてはまるもの全てに○		↓ あてはまるもの全てに○	
()	1) 職業人養成 ※職業人とは、管理栄養士・栄養士の資格または専門性を活かした職業に就く人材を指します。		① 臨床栄養
			② 公衆栄養
			③ 給食経営管理
			④ 学校栄養
			⑤ 健康・スポーツ栄養
			⑥ 福祉栄養
			⑦ 食品開発
			⑧ 国際栄養
			⑨ その他 ()
()	2) 研究者養成		① 基礎研究
			② 応用研究
			③ その他 ()
()	3) その他		

2. 貴施設において、管理栄養士として求められる基本的な資質・能力を高めるための教育を行っていますか。また、卒業時にどれくらいの学生が修得できていると考えられますか。右の選択肢の中から、それぞれあてはまるもの1つずつに○をつけてください。

	教育を行っているか			卒業時にどれくらいの学生が修得できていると考えられるか					
	行 現 在 中	行 現 在 中	予 定 今 後 取 組 む	ほ ぼ 全 員	7 ～ 8 割	約 半 数	2 ～ 3 割	0 ～ 1 割	わ か ら な い
1) 管理栄養士の使命感と役割	1	2	3	1	2	3	4	5	6
2) 論理的な思考力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
4) 資料や文献の検索力と読解力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
5) 課題解決に向けた行動力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
7) リーダーシップ	1	2	3	1	2	3	4	5	6
8) マネジメント能力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
9) 社会や組織を変えようとする力 (アドボカシー)	1	2	3	1	2	3	4	5	6
10) 協調性	1	2	3	1	2	3	4	5	6
11) その他* ()	1	2	3	1	2	3	4	5	6

*他に複数ある場合には、行を足してお答えください。

3. 管理栄養士養成課程の学生が卒業時に得る、学士の名称をお答えください。

学士 ()

4. 管理栄養士をめざす気持ちを育む導入教育を、1～2 年生で行っていますか。

1) はい	2) いいえ
-------	--------

1) はい と答えた方へ → 下表のあてはまるもの全てに○をつけてください。また、実施する学年も併せてお答えください（学年が複数にまたがる場合は、最初の学年をお答えください）。

○記入欄	導入教育の例	実施学年
	1) 管理栄養士の勤務施設等の見学	年
	2) 現役管理栄養士による講話	年
	3) 「導入教育」の教科書を使った授業や演習	年
	4) その他（具体的に	年

（上記に○をつけた方へ）→ 可能であれば、シラバスや内容の分かる資料の添付をお願いします。

5. 臨地・校外実習についてお答えください。

(1) 臨地・校外実習の科目名と単位数

科目名	主な実習先 (注1)	単位数	履修 学年	必修・選択の別
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修

（注1）主な実習先の回答には、次の A～H の記号をお使いください。

複数ある場合は、上位 3 カ所までをお答えください。

A	病院等医療施設（老健施設も含む）	E	事業所
B	介護老人福祉施設	F	学校
C	児童福祉施設	G	保健所・保健センター
D	その他の社会福祉施設	H	その他（施設名

(2) 臨地・校外実習の合計単位数をお答えください。

1) 必修	単位	2) 選択	単位	3) 選択必修	単位
-------	----	-------	----	---------	----

は、あてはまるもの全てに○をつけてください。

○記入欄	施設
	1) 附属病院
	2) 附属福祉施設
	3) 附属小中学校・高等学校
	4) 学内の食堂
	5) 学外の提携施設（具体的に： ）
	6) なし

6. 貴施設の教育カリキュラムにおける、科目に関する質問です。

(1) 以下のような教育を、科目（通常の授業）として行っていますか。行っているもの全てに○をつけてください。○印がついたものについては、必修・選択・選択必修の別および、回答例を参考にその内容をご記入ください。なお、科目名は主なもの1科目についてお書きください。

○ 記入欄	実施している教育	いずれかに○	具体的な内容 ※主なもの 1 科目 学年 科目名	回答例
	1) 管理栄養士としての専門意識を醸成するための教育	必修 選択 選択必修		2 年生, 管理栄養士演習 ・ 管理栄養士の職場見学 ・ 現職管理栄養士の話聞く
	2) 管理栄養士としての職業倫理教育	必修 選択 選択必修		3 年生, 校外実習事前演習 ・ 管理栄養士としての職業倫理の内容を学ぶ
	3) 他職種との連携のための教育	必修 選択 選択必修		3 年生, NST 演習 ・ 看護学部, 薬学部と合同でチーム医療演習を行う
	4) 情報のエビデンスを判断するための教育	必修 選択 選択必修		3 年生, 栄養疫学 ・ 栄養情報の信頼性について学ぶ
	5) その他	必修 選択 選択必修		4 年生, 臨床栄養インターンシップ, 臨床現場の仕事を経験する

(上記に○をつけた方へ) → 可能であれば、シラバスや内容の分かる資料の添付をお願いします。

--

○記入欄	取得できる資格
	1) 栄養教諭一種免許
	2) 中学校・高等学校教諭一種免許（科目： ）
	3) 食品衛生管理者（任用資格）
	4) 食品衛生監視員（任用資格）
	5) 健康運動指導士
	6) 健康運動実践指導者
	7) フードスペシャリスト
	8) フードコーディネーター
	9) NR・サプリメントアドバイザー
	10) その他（ ）

○記入欄	実施状況	○をつけた項目について、詳細をご記入ください。
	1) 必修	() 単位
	2) 選択	→例年、約何名の学生が履修していますか。() 名
	3) 選択必修	→例年、約何名の学生が履修していますか。() 名
	4) 卒業要件に含めない	→卒業研究を履修していない場合、それに代わる科目や課題を課していますか。 ① はい（下記に具体的にお書きください） ② いいえ ()
	5) その他	()

9. 現在、貴施設の教員が行っている「現場と連携した栄養改善に関わる実践的研究」があれば、以下の回答例を参考としてご記入ください。該当なしの場合は、Ⅲ にお進みください。

現場と連携した栄養改善に関わる実践的研究の事例	当該教員の 主担当科目	卒業研究など、学 生と一緒に行って いるものに○
(回答例 1) 地元自治体の栄養調査への協力	公衆栄養学	○
(回答例 2) 産科における妊婦の栄養状態の調査	臨床栄養学	
(回答例 3) 地域の弁当屋のヘルシーメニュー開発支援	給食経営管理論	○
(回答例 4) 地元サッカーチームの栄養サポート	応用栄養学	○
(回答例 5) 小学校における味覚教育の実践と評価	栄養教育論	○

Ⅲ. 平成 28 年度に貴施設の管理栄養士養成課程を卒業した学生についておたずねします。

管理栄養士課程の卒業人数	人
1)管理栄養士・栄養士の資格または専門性を活かして就職した者	人
① 病院等医療施設（老健施設も含む）	人
② 介護老人福祉施設	人
③ 児童福祉施設	人
④ その他の社会福祉施設	人
⑤ 保健所・保健センター	人
⑥ 学校	人
⑦ フードサービス・給食委託会社	人
⑧ 健康・スポーツ関連施設	人
⑨ 食品開発・食品製造	人
⑩ 薬局・ドラッグストア	人
⑪ その他（ ）	人
2) 進学した者	人
① 栄養関連大学院へ進学	人
② 栄養関連大学院以外の大学院へ進学	人
③ 上記以外の進学	人
3) その他（ ）の者	人

Ⅳ. この質問票に回答された方について、あてはまるものに○をつけてください（複数回答可）。

○記入欄	回答された方
	1) 学部長
	2) 学科長 または 学科長相当職
	3) 1),2) 以外の教員

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

8 月 31 日必着で返送くださいますよう、お願いします。

※回答方法は 1) E-mail, 2) 郵送のいずれかをお願いいたします。

詳細は本調査用紙 1 頁目をご覧ください。

〔自由記述欄〕 ご意見等がございましたら、下欄にお書きください。

栄養士養成施設用

栄養士教育に関する基礎調査

平成29年度 管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」

本調査は、日本栄養改善学会が厚生労働省より委託され、全国栄養士養成施設協会の協力の下、実施している「管理栄養士・栄養士のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討」の一環として行う調査です。

栄養・食生活をめぐる様々な課題が深刻化・多様化している現在、管理栄養士・栄養士に求められる役割も高度化、複雑化しており、高い専門性と専門的実践能力を有する人材の養成が喫緊の課題となっています。そこで、管理栄養士・栄養士教育のあり方を検討することを目的として、現状の教育がどのように行われているかを調査したいと考えております。

ご多用の折、誠に恐縮ですが、調査へのご協力をお願い申し上げます。

一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会長 滝川 嘉彦
特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 理事長 武見ゆかり

【ご回答にあたって】

- 貴施設の学科長または学科長職に相当する方が、必要な統計データ等は事務担当とご相談の上、ご回答くださるようお願いいたします。
- 回答は、E-mailまたは郵送のいずれかでお願いします。
(1) E-mailの場合・・・下記の問合わせ先のホームページよりダウンロードいただいた調査票にパソコンで入力し、下記の問合わせ先のE-mailアドレスあてに、件名を「コアカリ調査」として送信してください。ご提供いただけるシラバス等の資料はPDF等の電子ファイルで同送してください。なお、シラバス等の資料が紙媒体の場合は、お手数ですが、ご回答いただいた調査票も印刷して、返信用封筒にてお送りください。
(2) 郵送の場合・・・本調査票に回答を手書きで記入し、ご提供いただけるシラバス等の資料とともに、返信用封筒にてお送りください。
- 本調査は個人（教員、学生）の能力や施設別の実態を調べるものではありません。結果を公開する際は、集団のデータとして集計し、教員個人や個々の施設の情報が公表されることは決してありません。また、得られた情報は厳正に管理し、本調査目的以外には使用しません。
- 本調査は任意の調査であり、回答しないことによって不利益を被ることはありません。一度回答を提出された後でも、報告書作成前で施設名の記載があれば、回答を撤回することができます。
- 本調査のご回答をもって、調査への同意とみなします。
- お答えいただいた内容について後日、詳細な内容を問合わせさせていただく場合があります。
- 本調査へのご意見がございましたら、最終ページの自由記述欄にご記入ください。

回答期限：平成29年8月31日（木）必着

【問合わせ先】

特定非営利活動法人日本栄養改善学会事務局 中森正代、勝呂玲子
〒108-0073 東京都港区三田 3-4-18 二葉ビル 904 号

Tel: 03-5446-9970 E-mail: kaizen_kyoiku@jsnd.jp

URL: <http://jsnd.jp/information13.html> (調査票をダウンロードできます)

I. 栄養士養成課程の全体について

1. 栄養士養成課程の名称および学部・学科名をお答えください。

(記載は任意ですが、できるだけご協力をお願いします。個々の施設の情報が公表されることは決してありません)

--

II. 栄養士養成課程の教育方針について

1. 以下の問いにお答えください。

栄養士課程の入学定員数		人
栄養士の資格を活かして就職した者の割合（平成 28 年度）※1	約	%
管理栄養士課程へ進学（編入学）した者の割合（平成 28 年度）※1	約	%

※1 1 学年あたりの定員を母数として、だいたいの割合をお答えください。

2. 卒業時に得られる学位の名称をお答えください。

学 士 ()	短期大学士 ()
---------	-----------

3. 栄養士をめざす気持ちを育む導入教育を行っていますか。

1) はい	2) いいえ
-------	--------

1) はい と答えた方へ → 下表のあてはまるもの全てに○をつけてください。また、実施する 学
年も併せてお答えください（学年が複数にまたがる場合は、最初の学年をお答えください）。

○記入欄	導入教育の例	実施学年
	栄養士の勤務施設等の見学	年
	現役栄養士による講話	年
	「導入教育」の教科書を使った授業や演習	年
	その他（具体的に)	年

(上記に○をつけた方へ) → 可能であれば、シラバスや内容の分かる資料の添付をお願いします。

4. 校外実習（栄養士免許にかかわる実習に限る）についてお答えください。

(1) 校外実習の科目名と単位数

科目名	主な実習先 (注1)	単位数	履修 学年	必修・選択の別
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修
実習		単位	年	必修・選択・選択必修

(注1) 主な実習先の回答には、次の A～H の記号をお使いください。
複数ある場合は、上位3カ所までをお答えください。

A	病院等医療施設（老健施設も含む）	E	事業所
B	介護老人福祉施設	F	学校
C	児童福祉施設	G	保健所・保健センター
D	その他の社会福祉施設	H	その他（施設名： ）

(2) 校外実習の合計単位数をお答えください。

1) 必修	単位	2) 選択	単位	3) 選択必修	単位
-------	----	-------	----	---------	----

(3) 貴施設の学生専用として、もしくは優先的に校外実習が行える施設はありますか。あてはまる場合は、あてはまるもの全てに○をつけてください。

○記入欄	施 設
	1) 附属病院
	2) 附属福祉施設
	3) 附属小中学校・高等学校
	4) 学内の食堂
	5) 学外の提携施設（具体的に： ）
	6) なし

5. 貴施設の教育カリキュラムにおける、科目に関する質問です。

(1) 以下のような教育を、科目（通常の授業）として行っていますか。行っているもの全てに○をつけてください。○印がついたものについては、必修・選択・選択必修の別および、回答例を参考に、その内容をご記入ください。なお、科目名は、主なもの1科目についてお書きください。

○ 記入欄	実施している 教育	いずれか に○	具体的な内容 ※主なもの1科目 学年 科目名 教育内容	回答例
	1) 栄養士としての 専門意識を醸 成するための 教育	必修 選択 選択必修		1年生、栄養士演習、 現職栄養士の話を聞 く
	2) 栄養士として の職業倫理 教育	必修 選択 選択必修		2年生、校外実習 事前演習、栄養士と しての職業倫理を学 ぶ
	3) 他職種との連 携のための 教育	必修 選択 選択必修		2年生、NST 演 習、他学部と合同で チーム医療のための 演習を行う
	4) 情報のエビデ ンスを判断する ための教育	必修 選択 選択必修		2年生、栄養疫学、 栄養情報の信頼性に ついて学ぶ
	5) その他	必修 選択 選択必修		2年生、臨床栄養イ ンターンシップ、臨 床現場の仕事を体験 する

（上記に○をつけた方へ）→ 可能であれば、シラバスや内容の分かる資料の添付をお願いします。

(2) (1)でご記入頂いた科目（通常の授業）以外に、講演会、特別講義、見学などの方法で行っていることはありますか。あればその内容をお答えください（自由記述）。

あてはまるもの全てに○をつけてください。

7. 卒業研究の卒業要件における位置付けをお答えください。

62

8. 現在、貴施設の教員が行っている「現場と連携した栄養改善に関わる実践的研究」があれば、以下の回答例を参考としてご記入ください。該当なしの場合は、Ⅲにお進みください。

現場と連携した栄養改善に関わる実践的研究の事例	当該教員の 主担当科目	卒業研究など、 学生と一緒に 行っているものに ○
(回答例 1) 地元自治体の栄養調査への協力	公衆栄養学	○
(回答例 2) 産科における妊婦の栄養状態の調査	臨床栄養学	
(回答例 3) 地域の弁当屋のヘルシーメニュー開発支援	給食経営管理論	○
(回答例 4) 地元サッカーチームの栄養サポート	応用栄養学	○
(回答例 5) 小学校における味覚教育の実践と評価	栄養教育論	○

Ⅲ. この質問票に回答された方について、あてはまるものに○をつけてください（複数回答可）。

○記入欄	回答された方
	1) 学部長
	2) 学科長 または 学科長相当職
	3) 1),2) 以外の教員

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

8月31日必着で返送くださいますよう、お願いします。

※回答方法は1) E-mail, 2) 郵送のいずれかをお願いいたします。

詳細は本調査用紙1頁目をご覧ください。

〔自由記述欄〕 ご意見等がございましたら、下欄にお書きください。

栄養関連大学院

管理栄養士養成施設に設置されている大学院に関する基礎調査

平成29年度 管理栄養士専門分野別人材育成事業「教育養成領域での人材育成」

本調査は、日本栄養改善学会が厚生労働省より委託され、全国栄養士養成施設協会の協力の下、実施している「管理栄養士・栄養士のための栄養学教育モデル・コア・カリキュラムの検討」の一環として、行う調査です。

栄養・食生活をめぐる様々な課題が深刻化・多様化している現在、管理栄養士・栄養士に求められる役割も高度化、複雑化しており、高い専門性と専門的実践能力を有する人材の養成が喫緊の課題となっています。そこで、管理栄養士・栄養士教育のあり方を検討するための基礎資料として、現状の教育がどのように行われているかを調査したいと考えております。

本調査は、管理栄養士養成施設に設置されている大学院（以下、栄養関連大学院）の研究科専攻等における人材養成の内容、その中でも高度専門職業人養成を目指した具体的な取組み等の把握を目的としています。

ご多用の折、誠に恐縮ですが、調査へのご協力をお願い申し上げます。

一般社団法人 全国栄養士養成施設協会 会長 滝川 嘉彦
特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 理事長 武見ゆかり

【ご回答にあたって】

8. 貴施設の研究科を総括する長、または担当される専任教員が、必要な統計データ等は事務担当とご相談の上、ご回答くださるようお願いいたします。
9. 回答は、E-mailまたは郵送のいずれかでお願いします。
 - (1) E-mailの場合・・・下記の問い合わせ先のホームページよりダウンロードいただいた調査票にパソコンで入力し、下記の問い合わせ先のE-mailアドレスあてに、件名を「コアカリ調査」として送信してください。
 - (2) 郵送の場合・・・本調査票に回答を手書きで記入し、返信用封筒にてお送りください。
10. 本調査は個人（教員、院生）の能力や施設別の実態を調べるものではありません。結果を公開する際は、集団のデータとして集計し、教員個人や個々の施設の情報が公表されることは決してありません。また、得られた情報は厳正に管理し、本調査目的以外には使用しません。
11. 本調査は任意の調査であり、回答しないことによって不利益を被ることはありません。一度回答を提出された後でも、報告書作成前で施設名の記載があれば、回答を撤回することができます。
12. 本調査のご回答をもって、調査への同意とみなします。
13. お答えいただいた内容について、後日、詳細な内容を問合せさせていただく場合があります。
14. 本調査へのご意見がございましたら、最終ページの自由記述欄にご記入ください。

回答期限：平成29年8月31日（木）必着

【問合せ先】

特定非営利活動法人日本栄養改善学会事務局 中森正代、勝呂玲子
〒108-0073 東京都港区三田 3-4-18 二葉ビル 904 号
Tel: 03-5446-9970 E-mail: kaizen_kyoiku@jsnd.jp
URL: <http://jsnd.jp/information13.html> (調査票をダウンロードでき

I. 管理栄養士関係、あるいは栄養学関係の大学院の全体について

1. 栄養関連大学院の名称および研究科名をお答えください。
 （記載は任意ですが、できるだけ記名にご協力をお願いします。個々の施設の情報が公表されることは決してありません。）

--

2. 管理栄養士関係、あるいは栄養学関係の専攻名（コースがある場合はコース名まで）、入学定員等、以下の表の内容について、お答えください。専攻が複数ある場合は、すべてご記入ください。

【修士（博士前期）課程】

専攻名	学位（修士号）の名称	入学定員（人/年）	修了に必要な単位数	平成29年度在籍者数 （修士〔博士前期〕課程計）	
（回答例） 栄養学専攻	修士 （栄養学）	5 人	32 単位	在籍者数 内 管理栄養士有資格者	9 人 5 人
		人	単位	在籍者数 内 管理栄養士有資格者	人 人
		人	単位	在籍者数 内 管理栄養士有資格者	人 人
		人	単位	在籍者数 内 管理栄養士有資格者	人 人

3. 修士（博士前期）課程の担当教員（専任）は、何人ですか。
 また、その内、実践栄養学関連分野の教員は何人ですか。
 ※実践栄養学関連分野とは、公衆栄養、臨床栄養、栄養教育、給食経営管理などの分野を指します。

修士（博士前期）課程の担当教員数	人	その内、実践栄養学分野の教員数	人
------------------	---	-----------------	---

4. 博士後期課程がある場合、専攻名、および学位の名称をお教えてください。あり、なしに○をし、ありの場合は、専攻名と学位名をお答えください。

【博士（博士後期）課程】

	あ り →	専攻名	
		学位（博士号）の名称	
	なし		

5. **修士（博士前期）課程**の人材養成の目的について、あてはまるもの全てに○をつけ、その分野に関してもお答えください。

養成する人材像		具体的な分野	
↓ あてはまるもの全てに○		↓ あてはまるもの全てに○	
()	1) 職業人養成 ※職業人とは、管理栄養士・栄養士の資格または専門性を活かした職業に就く人材を指します。		① 臨床栄養
			② 公衆栄養
			③ 給食経営管理
			④ 学校栄養
			⑤ 健康・スポーツ栄養
			⑥ 福祉栄養
			⑦ 食品開発
			⑧ 国際栄養
			⑨ その他 ()
()	2) 研究者養成		① 基礎研究
			② 応用研究
			③ その他 ()
()	3) その他		

6. 貴施設における高度専門職業人養成について、今後の方針をお答えください。

※高度専門職業人とは、5の1)にあげたような栄養に関わる現場で、高度専門家として働く管理栄養士のことを指します。

1) 今後、強化する予定

2) 現状維持

3) 現在は行っていないが、今後取り組む予定

4) 今後も取り組む予定はない

5) 未定

1. 以下の1)～11)の教育内容が、貴施設においてどの程度行われているかについて、全く行っていない(1)～必ず行っている(5)までの5段階でお答えください。また、これらの教育内容が、修士修了要件として必須かどうかをお答えください。

大学院生（博士前期課程）への教育内容	い 全 く 行 つ て い な ← → 必 ず 行 つ て い る					修士修了要件 に必須である 場合に○印
	1	2	3	4	5	
1) 研究室内のゼミ(※)に参加させている ※複数の学生と教員で、論文抄読や研究発表をしたりする時間	1	2	3	4	5	
2) 修士論文の中間発表を行わせている	1	2	3	4	5	
3) 学会発表をさせている	1	2	3	4	5	
4) 学会誌に論文投稿させている	1	2	3	4	5	
5) 地域と連携した研究を行わせている	1	2	3	4	5	
6) 医療施設と連携した研究を行わせている	1	2	3	4	5	
7) 企業と連携した研究を行わせている	1	2	3	4	5	
8) インターンシップ等の学外実習に参加させている	1	2	3	4	5	
9) 語学研修、海外研修などに参加させている	1	2	3	4	5	
10) 資格（ ）の取得	1	2	3	4	5	
11) その他（具体的： ）	1	2	3	4	5	

1) はい (学会名:) 2) いいえ

3. 修士（博士前期）課程において、管理栄養士として求められる基本的な資質・能力を高めるための教育を行っていますか。また、修了時にどれぐらいの学生が修得できていると考えられますか。右の選択肢の中から、それぞれあてはまるもの1つずつに○をつけてください。

	教育を行っているか			修了時にどれくらいの学生が 修得できていると考えられるか					
	現在 行っている	現在 行っていない	今後 予定 む 取り組	ほぼ 全員	7 ～ 8割	約 半数	2 ～ 3割	0 ～ 1割	わ から ない
1) 管理栄養士の使命感と役割	1	2	3	1	2	3	4	5	6
2) 論理的な思考力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
3) 異なる分野の人とのコミュニケーション力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
4) 資料や文献の検索力と読解力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
5) 課題解決に向けた行動力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
6) 多様な価値観に対する寛容性と理解力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
7) リーダーシップ	1	2	3	1	2	3	4	5	6
8) マネジメント能力	1	2	3	1	2	3	4	5	6
9) 社会や組織を変えようとする力 (アドボカシー)	1	2	3	1	2	3	4	5	6
10) 協調性	1	2	3	1	2	3	4	5	6
11) その他* ()	1	2	3	1	2	3	4	5	6

*他に複数ある場合には，行を足してお答えください。

Ⅲ. 修士（博士前期）課程修了後の進路について

1. 平成28年度修了生の進路についてお答えください。

分野		平成 28 年度修了生
1)	教育機関 助教以上の教員	人
2)	助手	人
3)	研究員等	人
4)	研究機関	人
5)	企業 研究職	人
6)	研究職以外（ ）	人
7)	医療機関	人
8)	福祉施設・介護施設	人
9)	行政	人
10)	学校 栄養教諭	人
11)	学校栄養士	人
12)	給食マネジメント	人
13)	博士後期課程に進学	人
14)	その他（ ）	人
15)	未定または不明	人
合 計		人

質問はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。

8月31日必着で返送くださいますよう、お願いします。

※E-mail の場合は、件名を「コアカリ調査」として kaizen_kyoiku@jsnd.jp へご回答のファイルを添付し、送信してください。

〔自由記述欄〕 ご意見等がございましたら、下欄にお書きください。